

令和5年度

事業報告

令和6年5月

公益財団法人 群馬県青少年育成事業団

目 次

I 法人の概況

	頁
1 設立年月日	1
2 定款に定める目的	1
3 定款に定める事業内容	1
4 主務官庁に関する事項	1
5 主たる事務所・事業所の状況	1
6 役員の役割等に関する事項	1
7 職員に関する事項	2
事業団組織図	2

II 事業の概況

1 事業一覧表	3
A 指定管理事業	
(1) 青少年等の活動場所の提供事業	6
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	12
(3) 青少年の交流・体験活動事業	20
(4) 青少年団体の育成及び指導事業	32
(5) 情報収集・情報提供システム事業	42
B 自主事業	
(1) 青少年活動支援事業	46
(2) 地域連携協力事業	48
(3) 広報事業	50
(4) 補助事業	52
C 受託事業	
青少年自立・再学習支援事業	53
2 重要な契約等に関する事項	57
3 役員会等に関する事項	59

事業報告

I 法人の概況

1 設立年月日
昭和56年11月16日

2 定款に定める目的

この法人は、設立の趣旨を踏まえて、青少年の健全育成に関する諸事業及び青少年団体の育成並びにその事業を行う施設の管理運営を行い、もって本県の次代を担う青少年の健全な育成に寄与することを目的とする。

3 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成を目的とした企画事業
- (2) 青少年及び青少年団体が行う主体的、自主的な活動の支援
- (3) 青少年団体の育成及び助言並びに研修の実施
- (4) 青少年の健全育成に関する資料の収集及び情報の提供
- (5) 青少年の健全育成に関する相談事業
- (6) 青少年の健全育成に関する調査研究
- (7) 青少年の健全育成に関する施設等の管理運営の受託
- (8) その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

4 主務官庁に関する事項

群馬県生活こども部県民活動支援・広聴課 公益法人係

5 主たる事務所・事業所の状況

- (1) 財団事務局：群馬県前橋市荒牧町2番地12 群馬県青少年会館内
- (2) 事業所：群馬県青少年会館

6 役員の役割等に関する事項（令和6年3月31日現在）

- (1) 評議員（6名）
任期：令和5年6月16日から4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで

(あいうえお順)

氏名	常勤・非常勤の別
栗原 ウメ子	非常勤
小林 昭紀	〃
松本 佳祝	〃
森谷 健	〃
山田 和豊	〃
吉川 真由美	〃

評議員は、評議員会を構成し、法令及び定款で定める事業団の基本的事項を意思決定する。

- (2) 理事（9名）
任期：令和5年6月16日から2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで

(理事：あいうえお順)

職	氏名	常勤・非常勤の別
理事長 (代表理事)	太田 大森	非常勤
副理事長	大川 由明	非常勤
常務理事 (業務執行理事)	中村 洋	常勤
理事	青木 美幸	非常勤
理事	大澤 京子	非常勤
理事	関口 利美	非常勤
理事	櫻井 常矢	非常勤
理事	富澤 香	非常勤
理事	齊藤 千春	非常勤

理事は、理事会を構成し、法令及び定款で定めるところにより、職務を執行する。

理事長は、事業団の代表理事として、理事会の決定に基づき業務を統括し、業務を執行する。（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事）

副理事長は、理事長に事故あるとき又は欠けたときは理事長の職務を執行する。

常務理事は、理事長及び副理事長を補佐して業務を処理し、理事長及び副理事長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行する。（一般社団法人及び一般財団法人に関する法立第197条において準用する第91条第2号の業務執行理事）

(3) 監 事 (2名)

任期：令和5年6月16日から2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで)

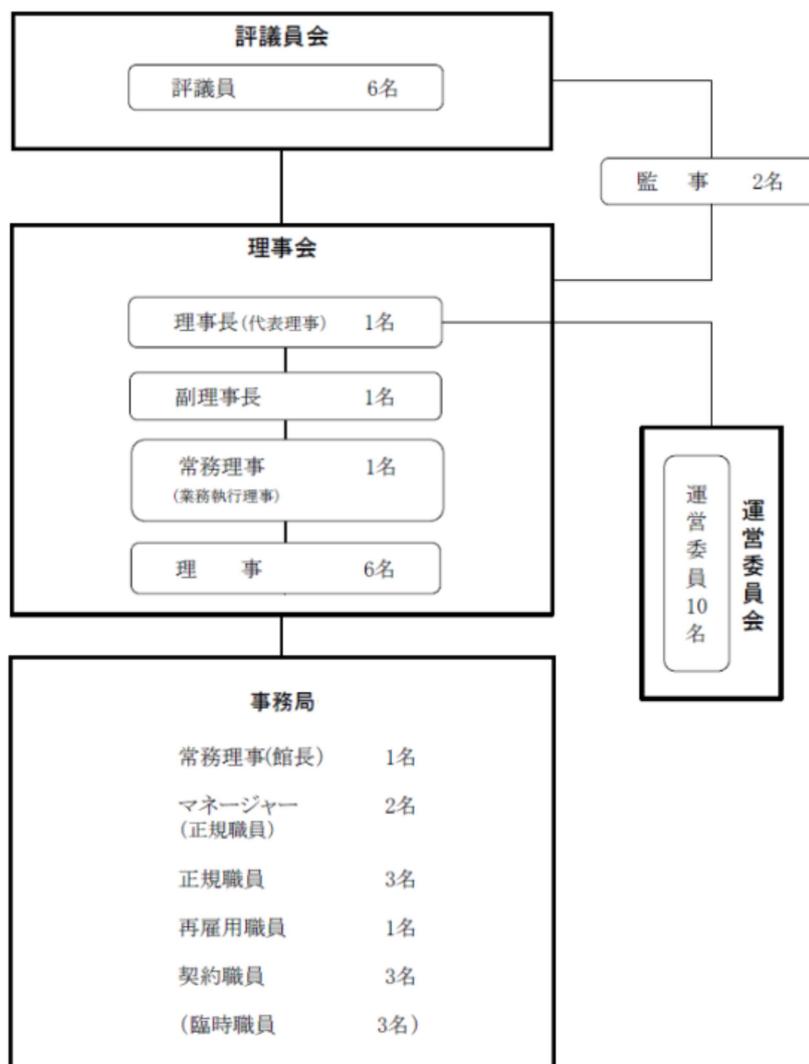
氏 名	(あいうえお順)	
	常勤	非常勤の別
竹 内 努		非常勤
田 口 紀 雄		非常勤

監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

7 職員に関する事項 (令和5年3月31日現在)

職 員		契約職員		合 計			平均 年齢	平均 勤続年数
男	女	男	女	男	女	計		
5	1	3	1	8	2	10	52歳	12年

注 非常勤職員を除く



II 事業概況

A 指定管理事業

事業名	趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(1) 青少年等の活動場所の提供事業	青少年会館の管理・運営をととして、青少年及び青少年団体の自主的かつ創造的な活動の場を提供し、青少年の健全育成に寄与する。	青少年の活動場所提供業務、会館の施設設備等維持管理業務、予約システムの運用業務、施設利用の承認事務、施設利用料収納事務、広報事務、安全管理業務、職員研修、会計経理給与事務、その他管理運営に必要な業務	通年	<ul style="list-style-type: none"> Web、Xの発信の重点 レストラン業者との連携したサービスの改善 入口、館内案内サインの修正 宿泊室寝具新調、駐車場区画線引き直し等利用者の利便性を高める改善等
青少年健全育成事業	趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(2) 青少年指導者・ボランティア養成事業	① 子どもふれあいワークショップ	子どもの居場所に関わっている(または関心のある)青年層を対象に子どもとの関わり方や「遊び」に対する考え方の学びを提供し、子どもの体験活動に係る人材を養成する。	2/24(土)	<ul style="list-style-type: none"> 実技、講義に参加者と指導者が対話する時間を多く取り、互いの成功例や失敗例、効果的な対策を学び合うことができた。
	② 中学生・高校生交流ボランティア体験	中高生のボランティア活動を支援・推進するための活動の機会や実践の場を提供する。そのためボランティア入門の基礎知識習得の研修を行うとともに実践を通じた参加者の交流を図る。	講義 7/8(土) ボラ活動の実践 7/9(日)	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の交流を促進するために自己紹介ゲームを充実させた。 実践では施設ボランティア「会館友の会」が指導するパルーンアート製作において児童をサポートできた。
	③ 体験活動・ボランティア活動支援センター	青少年及び指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする学校や青少年団体との連絡調整を行い、それぞれの活動の活性化を図る。	通年	<ul style="list-style-type: none"> 緑化や環境整備に取り組むボランティア団体に会館敷地を活動場所として提供した。 県、前橋市、市社協の担当者と会議を行い、連携したイベントの構想ができた。
	④ 広報のためのドローン講座【新規事業】	ドローンを使用した広報活動を行うため、ドローンの基礎知識と活用理解及び操作技術の向上を図る。	9/19(火)	<ul style="list-style-type: none"> ドローンについて基礎知識や法令を理解できた。 施設紹介や事業の記録動画の方法に選択肢が広がった。
(3) 青少年の交流・体験活動事業	⑤ 心のバリアフリー事業(ふれあい・ゆうあい交流フェスタ)	障がいのある人とない人がともにふれあい、互いに理解し合える場づくりに向けて障がいのある子どもを支援する団体や青少年団体関係者と協働でイベントを開催する。	実行委員会 ① 6/7(水) ② 8/16(水) ③ 9/27(水) ④ 10/25(水) 事前研修 10/14(土) 開催日 10/15(日)	<ul style="list-style-type: none"> 5年ぶりにフェスティバルを開催できた。 次年度に向けて職員が障がい児を支援する団体等を訪問し、事業説明と参加の呼びかけを行った。
	⑥ 親子ふれあい体験教室	ものづくり等、親子共同作業を通して、親子や参加者同士のふれあいを深める。また、レクリエーションによる交流を図る。	7/22(土) 7/23(日)	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の1日開催から2日に増やし、より多くの親子に参加してもらえた。
	⑦ 高校生写真講座	群馬県高等学校文化連盟写真専門部と連携して企画立案を行い、グループ活動による撮影や組み写真制作を通じた参加者の交流を図る。また、撮影に関するモラルや技術を高める機会を提供する。	9/2(土)	<ul style="list-style-type: none"> 他校生徒と交流が図れるよう、学年やリポート参加者の状況を指導者と相談して撮影制作グループを編成した。 完成した組み写真をSNSで紹介した。
	⑧	海外や日本の伝統的な遊	留学生の出身国である文化や	

	交流文化体験 【新規事業】	びやクラフト等を通して、多様な文化に触れる機会を設けるとともに、児童及び留学生、ボランティアによる異年齢交流を行う。	地理の紹介、遊び等の体験 ・留学生と児童、ボランティアと一緒に日本文化（古武道、和太鼓）を体験 ・高校生ボランティアの受入	6/24(土) 6/25(日)	カ国の留学生を派遣してもらうことができ、多様性のあるプログラムが実施できた。 ・青少年団体、高校生が小学生の活動をサポートした。
	⑨ 高校生と小学生の夏休み交流活動（夏休みサイエンスクール） 【新規事業】	高校生の部活動や委員会に小学生の体験教室に関わる機会を提供し、事業を通じてボランティア活動の達成感を感じてもらうとともに、年少者を思いやる心を育む。	・高校生によるプログラム企画を支援し、社会教育への参画の機会を提供 ・プログラムを通じた高校生と児童の異年齢交流	8/3(木)	・前橋女子高校の科学部有志と協働でプログラムを立案した。 ・科学教室のみならず、高校生が企画したレクリエーションも実施し交流を深めた。
	⑩ つくって遊ぶ体験教室 【新規事業】	制作を通して参加児童の想像力を養う。また制作したものを用いて遊び、参加者同士のふれあいを深める。	・青少年会館友の会とボランティアによるバルーンアート製作と遊びの提供 ・中学生・高校生交流ボランティア体験受講者の活動実践	7/9(日)	・中学生、高校生がボランティア講座での学びを実践できた。 ・大人の指導者と参加児童の間に中高生を入れたことで交流活動が円滑になった。
(4) 青少年団体の育成及び指導事業	⑪ 青少年団体活動支援事業	青少年団体の振興、育成のため、各青少年団体との連携を一層深めるとともに共催事業や連携事業を企画、実施する。これらの事業をおおして各青少年団体の更なる活性化、指導力の向上を支援するとともに、新たな団体、サークル等の発掘に努める。	・青少年団体の情報収集 ・青少年団体の事業支援 ・青少年団体と共催事業の開催 ・群青連協加盟団体に担当職員を配置 ・各事業等における高校生ボランティアの受入	(7) 夏休み宿題お助け隊 8/5(土) 8/6(日) (イ) 夏休み茶道体験 8/20(日) 午前・午後 (ウ) 親子で茶道教室 12/10(日) 午前・午後 (エ) 目指せ！ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!??～ 1/28(日) (オ) ボランティアのつどい 3/9(土)	(7) 昨年度の1日開催から2日に増やした。今年度の宿題終了後の交流活動で「ストロー飛行機」を制作し、飛距離を競った。 (イ) (ウ) 昨年度の1日開催から2日に増やした。(イ)の参加者は児童のみとし、机とイスを使用して実施した。 (エ) 団体指導者が高校生ボランティアの事前研修とふりかえりにスライド教材を準備するなど活動わかりやすく伝えた。 (オ) Web、X による高校生ボランティアの募集に効果があった。
	⑫ ぐんま青少年ねっと	Web・ブログ・SNSにより青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信し、周知を図る。また、学習コーナーの利用者がインターネットを利用できる機器を貸し出し、青少年の自己学習や情報収集を支援する。	・会館運営、事業開催情報の提供 ・WebとSNSの有効な運用 ・学習情報コーナーの設置（無料Wi-Fiエリア内） ・事業に関するデータベースの管理と運用	通年	・SNS (X) では、トレンドキーワードを取り入れた日常的な投稿を行い、当アカウントの知名度・認知度の拡大を図ることができた。また他ユーザーから寄せられたリブを必要に応じて返信するなど、親しみのあるアカウント形成にも繋がった。
(5) 情報収集・情報提供システム事業	⑬ 青少年活動事例調査 【新規事業】	青少年の課題やニーズを把握するとともに、指導者の情報や他施設の取り組み事例を収集する。	・青少年の地域活動やボランティア活動の視察 ・他施設の体験活動及び研修の情報収集や参加	通年	・年間10カ所の施設や団体を訪問し、施設の運営、実態、講師情報を収集できた。

B 自主事業

事業名	趣旨・目的	事業内容	実施時期	改善・変更点等
(1) 青少年活動支援事業	会館を拠点とする「青少年会館友の会」に、青少年健全育成事業の指導者として施設ボランティア・事業ボランティアの活動の場を提供するとともに、共催により友の会が	・ゆめすくーる（大学生参画による小学生対象の体験教室） ・会館事業へのボランティア参加 ・自主的活動の支援	通年（活動支援） ゆめすくーる 10/1(日) 午前・午後 10/8(日) 午前・午後 11/5(日) 午前・午後 12/17(日) 午前・午後	・友の会主催「クリスマスリースづくり」の広報を支援した。 ・共催の「ゆめすくーる」はR6年度よりよい運営体制について指導者と検討会を開いた。

		企画する児童の体験活動の実施を支援する。			
(2) 地域連携協力事業	②	市町村や県内団体及び学校等の事業と連携し、ニーズに対応した体験活動や研修を受け入れる。また、県内で開催されるイベント等に参加・協力し、地域との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 大学の社会教育実習等の受け入れ 学校等からの施設見学や職場体験への協力 社会教育施設及び青少年団体等が主催するイベント等へのブース出展及び運営協力 県内ボランティア団体等が主催する教育プログラムの共催や協力 	(7) 体験の風をおこそう運動協力 実行委員会 6/16(金) 1/30(火) あかぎフェスタ出展 10/22(日) スマーク伊勢崎出展 2/3(土) (イ) 荒牧小学校対応(町たんけん) 5/31(水) (ウ) 社会教育実習等 東京福祉大学 7/8(土) 7/9(日) 群馬大学 12/22(金) (エ) 高校生短期インターンシップ受け入れ 前橋商業高校 10/25(水) (オ) ライオンズクエストワークショップ 12/26(火)	(7) 出展では体験活動プログラム提供と合わせてリーフレットや事業チラシを配布し、PR活動を行った。 (イ) 来館した児童に館報やチラシで夏季実施の事業を周知した。 (ウ) 学生に事業や施設案内を通じて館内の印象や参加したい事業について感想を聞き取りした。 (エ) 会館内での作業のほかプログラムの理解のためクラフトを体験させた。 (オ) 吉岡町、榛東村等の学校を訪問するなど、事業説明を強化した。
(3) 事業広報	③	関係者と親睦を深め、事業団広報及び関係機関との連携強化、利用促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターを使った主催事業紹介 団体の協力による呈茶 新春落語、箏演奏 	1/20(土)	<ul style="list-style-type: none"> 茶道会青年部の協力で開会前に茶席を設け、情報交換の時間を設けた。
(4) 事業補助	④	団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く5団体へ補助金を交付する。	<ul style="list-style-type: none"> 事務局運営用補助金の交付(4万円×5団体) 		

C 受託事業

事業名	趣旨・目的	事業内容	実施時期	過年度の改善点等
(1) 青少年自立・再学習支援事業	① G-SKY Plan	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの配置 青少年とその保護者・学校からの相談対応 体験活動受入事業所等の情報収集、連絡調整 体験活動のコーディネート 再学習支援のための各種情報の収集、提供 	通年(相談・面談・体験)合同会議(4回) 4/14(金)、7/6(木) 12/8(金)、3/6(水) 進路相談会(2回) 8/27(日)、10/21(土)	<ul style="list-style-type: none"> 前橋市内の中学校への広報活動の一つとして、新任校長の中学校を訪問し、事業説明を行った。 進路相談会では、群馬県私立通信制高校連絡協議会に加盟している学校に参加を依頼した。その結果、前年度に比べて参加校が2校増加した。 ステップアップ支援促進事業との連携を深めるため、自立・再学習支援会議を月1回開催した。
	② 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談 学びに応じた教科書や副教材の紹介、高卒認定試験の紹介、教育機関や修学のための経済的支援の紹介等 学習支援 青少年会館を活用し、高卒認定試験等の受験を目指す学習者に対して個別に学習支援を行い、学習者の自立を促す。 	学習相談・支援等 4～3月 学習会 60回	<ul style="list-style-type: none"> G-SKYPlan との連携を深めるため、自立・再学習支援会議を月1回開催した。 群大医学部の学生に学習支援を依頼して、理数系の学習を中心にサポートを行った。

A 指定管理事業

(1) 青少年等の活動場所の提供事業

群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）の設置目的・業務に添った運営を行うべく、施設の利用については、青少年の育成に関する諸事業並びに青少年及び青少年関係団体、学校等の自ら企画した事業等の活動場所の提供事業と位置づけ、当事業団の公益目的の事業として運営を行った。

- ・設置目的
青少年団体活動の振興及び青少年の健全な育成を図るため設置
（群馬県青少年会館の設置及び管理に関する条例（以下「設管条例」という。）第2条）
- ・業務
青少年の健全な育成を推進するための業務、青少年団体の育成
（設管条例第2条の2）
- ・施設概要
敷地面積：8,862㎡
建築延べ面積：3,676㎡（本館2,746㎡ 新館930㎡）
- ・指定管理期間
令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年間）
- ・管理運営体制
 - a 組織体制
事務局の責任者は常務理事（館長）とし、従来の課を廃止するとともに、マネージャー制を導入した。
マネージャー2名、正規職員3名、再雇用職員1名、契約職員3名、臨時職員3名
 - b 職員の資質、知識向上
職員対象の全体会議、利用者対応に関する研修、安全管理訓練、他施設との合同研修の参加等、内部、外部の研修・訓練等により職員の資質向上に努めた。

① サービス向上の取り組み

ア 接遇研修

講師：（一社）日本産業カウンセラー協会

テーマ：「コミュニケーション研修」～より良い聴き方・伝え方について～

概要：職場のコミュニケーションの重要性を再度確認する。利用者等との接客において話の聴き方、伝え方のポイントを学ぶ。

イ 受付対応と業務マニュアル等の見直し

宿泊室の退出チェック表を見直し、部屋長による宿泊者の寝具の整理と室内清掃の確認欄を設けた。

職員が業務を適正に処理できるよう、宿直、B勤務、C勤務の各マニュアルを適宜修正した。

ウ 平等、公平な利用者サービスの提供等

施設予約の受付期間と受付時間を遵守し、平等、公平な受付業務を引き続き実施した。



接遇研修

接遇研修の学びを生かし、おもてなしの心、サービス精神を持って対応を心がけた。

エ 職員間の情報の共有化

毎月始めに理事長、常務理事、マネージャーによる月例運営会議で理事長からの指示、業務の進捗等を確認した。また、全職員が業務に関する情報を共有するため、月1回の全体会議を行った。また、毎日の業務開始時に朝の会を行い、当日の利用団体や事業に関する情報を共有した。

また、交代勤務の中で各職員が毎日の状況を把握するために、事務室内に業務日誌を常備し、行事・修繕・点検・苦情と要望を記録した。

オ アンケートや聞き取り調査等の実施とフィードバック

事業参加者のアンケート様式を見直し、ねらいの達成度、交流の状況、情報の入手先等、選択式にして集計した。また事業の感想は記述のみに頼らず、担当職員等が参加者から直接聞き取りを行うなど工夫した。施設利用者には、毎回、代表者へアンケート記入を依頼した。また、館内に投稿箱とアンケート用紙を常備し、意見を受け付けた。

アンケート等での苦情、要望等で改善可能なものは速やかに対応・改善した。また、フィードバックは受付やWeb等でお知らせした。

※主な対応内容

要望：脱衣所に時計が欲しい。

対応：本館浴室脱衣所に壁掛時計を設置した。

要望：レストランに食事を予約したい。

対応：7月からの館内レストラン再開に伴い、HPに注文書を掲載するとともに予約受付時に利用案内を行った。またレストラン代表者とより良いサービス提供に向けて情報交換した。

カ 外部研修の参加や情報収集の実施

青少年健全育成事業の企画力・技能向上に関する外部研修等に出席し、スキルアップを図るとともに他施設の状況や社会教育の最新情報の収集に努めた。

「新入社員研修」 ぐんぎんコンサルティング株式会社 1名

「社会教育推進セミナー」 群馬県生涯学習センター 1名

「社会教育実践研修」 群馬県生涯学習センター 1名

「公益法人・一般法人会計セミナー」 (公財) 公益法人協会 1名

「令和5年度群馬県青少年施設連絡協議会第1回研修会」 群馬県青少年施設連絡協議会 2名

「防火管理者再講習」 (一財) 日本防火・防災協会 1名

「ビジネスマナー研修」 ぐんぎんコンサルティング株式会社 2名

「広報(SNS)運営に関する相談」 (公財) 群馬県産業支援機構 3名

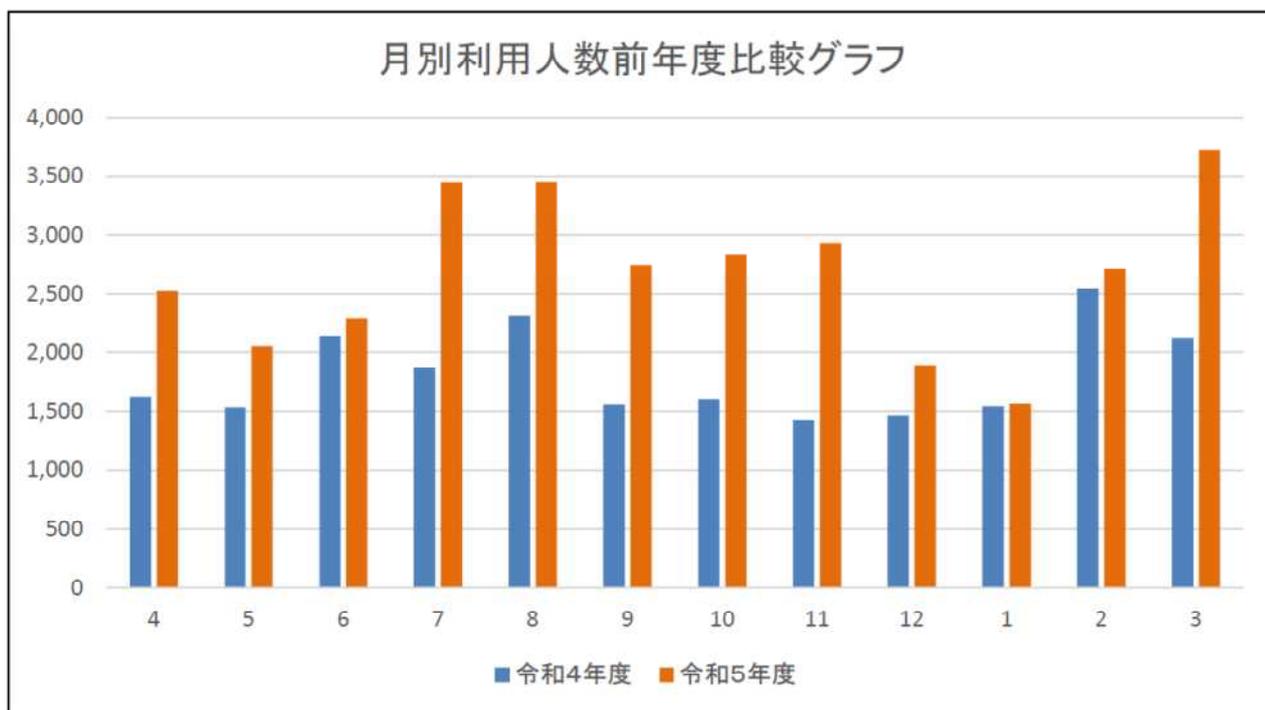
指定管理事業「青少年活動事例調査」による事業、施設等の情報収集 10カ所 延べ16名

② 年間利用集計

ア 利用人数

月	令和4年度 (A)						令和5年度 (B)						比較 (B)-(A)						
	日帰り		宿泊利用		合計		日帰り		宿泊利用		合計		利用人数 対前年比	日帰り		宿泊利用		合計	
	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数		団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数
4	70	1,628	0	0	70	1,628	95	2,387	2	142	97	2,529	155.3%	25	759	2	142	27	901
5	76	1,532	0	0	76	1,532	78	1,551	9	504	87	2,055	134.1%	2	19	9	504	11	523
6	78	1,827	4	316	82	2,143	78	2,044	4	246	82	2,290	106.9%	0	217	0	△70	0	147
7	78	1,699	8	174	86	1,873	89	2,444	16	1,006	105	3,450	184.2%	11	745	8	832	19	1,577
8	72	1,746	10	564	82	2,310	73	2,168	23	1,284	96	3,452	149.4%	1	422	13	720	14	1,142
9	68	1,445	2	113	70	1,558	109	2,509	6	240	115	2,749	176.4%	41	1,064	4	127	45	1,191
10	60	1,497	3	104	63	1,601	80	2,632	6	203	86	2,835	177.1%	20	1,135	3	99	23	1,234
11	64	1,276	4	150	68	1,426	102	2,866	3	72	105	2,938	206.0%	38	1,590	△1	△78	37	1,512
12	61	1,174	10	293	71	1,467	76	1,479	10	414	86	1,893	129.0%	15	305	0	121	15	426
1	77	1,544	0	0	77	1,544	64	1,408	3	158	67	1,566	101.4%	△13	△136	3	158	△10	22
2	80	2,546	0	0	80	2,546	80	2,134	12	582	92	2,716	106.7%	0	△412	12	582	12	170
3	73	1,541	8	579	81	2,120	80	2,263	21	1,470	101	3,733	176.1%	7	722	13	891	20	1,613
計	857	19,455	49	2,293	906	21,748	1,004	25,885	115	6,321	1,119	32,206	148.1%	147	6,430	66	4,028	213	10,458

令和5年度の施設利用者数は、延べ32,206人(対前年度比148.1%)であった。



※参考 令和5年度新型コロナ関係

新型コロナウイルス感染症の位置づけが、令和5年5月8日から「5類感染症」になった。

■前期

4月は新型コロナの影響が残り、宿泊を伴う企業新人研修等の利用はなかった。5月に新型コロナウイルスが5類感染症になったことから、高校の部活やスポーツ大会関係者の宿泊利用が増えた。

また、7月にレストランが営業開始したこともあり、夏休み期間は企業研修やスポーツ団体、勉強合宿等の宿泊利用が前年度より大幅に増加した。

■後期

事業団事業（交流フェスタ）やコロナ禍で中止となっていた青少年団体の秋季イベント等の再開により、利用人数が増加した。

イ 利用料収入の実績

平成26年度より利用料金制が導入された。令和5年度は8,443,375円の利用料収入があった。

月	利用料収入		
	令和4年度 (A)	令和5年度 (B)	(B) - (A)
4	292,680	466,080	173,400
5	270,050	530,560	260,510
6	332,480	339,615	7,135
7	379,360	1,465,440	1,085,300
8	589,130	1,157,600	568,470
9	338,540	715,800	377,260
10	273,870	482,400	208,530
11	268,065	487,880	219,815
12	280,310	507,440	227,130
1	292,050	326,820	34,770
2	302,000	757,190	455,190
3	524,170	1,206,550	682,380
合計	4,142,705	8,443,375	4,299,890

ウ 広報、利用促進活動

- ・ 平日企業利用を増加させるため、ブログによる施設紹介、Webの分析ツールを利用して情報収集

を実施した。

- ・企業への訪問を実施し、情報収集、利用促進に努めた。
- ・事業対象者の興味関心を高めるため、事業実施後にブログに事業の様子を掲載した。
- ・SNSの活用について専門家に相談し、Xについては、トレンドキーワードの活用やリプライへの返信による相互交流のための取り組みを開始した。
- ・更新回数は、Webページ45回、ブログ41回、X154回だった。
- ・館報、リーフレットを県内全域に配布した。
- ・会館のロゴを入れたクリアファイルを作成し、広報資料とともに配布した。
- ・マスコミに事業当日の取材を依頼した。(上毛新聞掲載5回、群馬テレビ放映1回)

③ 環境整備及び修繕の取組

ア 環境整備

- ・職員が一日2回館内外を巡視する等、設備の確認や利用者の安全を第一に常に緊張感をもって管理を徹底した。
- ・居心地の良い雰囲気づくりに配慮し、七夕や節句に合わせて季節の飾りや花壇で育成した草花等を館内に飾った。また、栽培した苗の一部を利用者が自由に持ち帰れるようロビーに配置した。
- ・指定管理仕様書の管理基準により関係法令を遵守し、施設設備の日常点検、保守管理等を実施した。
- ・年1回の備品総点検を行い、適正な管理に努めた。
- ・植栽管理は、年2回の業者委託の他、群馬県青少年団体連絡協議会や環境美化団体みどりの会と連携した清掃作業及び職員による日常的な除草作業、インターロッキングの草取作業を実施し、環境維持に努めた。

イ 設備修繕及び維持改善等

- ・経費節減のため、軽微な修繕はできるだけ職員で行った。また、既存設備のメンテナンスや修繕工具取扱いの注意事項についてベテラン職員が新人職員へ指導した。
- ・修繕及び設備改修・メンテナンス等、次のとおり実施した。

【業者対応】

新館ロビーソファ張替、団体事務室側及び本館3階小便器水漏れ修理、屋外会館案内板改修、宿泊室寝具新調、本館3階女子トイレ詰まり改善作業、消防設備修繕(誘導灯、感知器)、本館3階給湯室改修、中小会議室遮光カーテン取替、本館照明LED化、屋外倉庫雨漏り修繕、駐車場区画線引き直し作業、駐車場側入口案内板設置、風呂ボイラー昇温不良調整、屋外標語看板撤去、和室壁穴補修

【職員対応】

正面玄関ソーラーライト交換、宿泊室ドアノブ修繕、脱衣所壁掛時計取付作業、会議室ワイヤレスマイク充電金具補修、プレイホール鏡保護戸板収納ロープ設置、入口周辺高圧洗浄作業、会議室長机及びホワイトボード金具調整、電球・蛍光灯交換、館内案内板修正



職員による花壇管理



ポット苗を利用者に配布



職員による植栽管理



脱衣所の壁掛時計取付作業



駐車場及び敷地周辺の除雪作業



宿泊者オリエンテーション

④ 緊急時の体制・対応、防災、感染症対策

- ・ 1階出入口の非接触式体温計、館内各所の手指消毒用アルコール設置を継続した。
- ・ 危機管理マニュアルを修正・更新した。
- ・ 消防署職員を講師に招きAEDを使用しての救急救命講習、警察署生活安全課職員を講師に招いての不審者対応訓練（防犯訓練）をそれぞれ1回実施した。
- ・ 入居青少年団体事務局とともに自衛消防隊を組織し、消防訓練を年2回実施した。その内の1回は消防署職員の派遣を依頼し、防災に関する専門的な知識を学んだ。



救命講習



消防訓練



防犯訓練

⑤ 青少年団体や地域住民等との連携

- ・ 寿楽園等の近隣施設や近隣学校と連携・交流を図った。
- ・ 荒牧町自治会と周辺地域に関する情報交換を行った。
- ・ 群馬県青少年団体連絡協議会加盟団体の総会や会議に参加した。
- ・ ライオンズクラブ国際協会333-D地区と連携して共催事業を実施した。
- ・ 前橋市の管理事務所に協力を得て、会館駐車場満車時にばら園駐車場を借りた。
- ・ 青少年会館友の会や群馬県青少年団体連絡協議会の協力で1階ロビーにクリスマス飾りや子どものクラフト教材（わくわく袋）を配置した。また連動して職員が遊びのコーナーを併設した。
- ・ 群馬県青少年団体連絡協議会、環境美化団体みどりの会と連携して敷地内の除草や清掃を行った。



群馬県青少年団体連絡協議会による会館清掃



環境美化団体みどりの会による駐車場除草作業



荒牧小学校の施設見学「まち探検」に協力

⑥ その他

ア 情報公開及び個人情報保護への取り組み

情報公開規程に基づいた情報公開及び個人情報保護規程、特定個人情報保護規程に基づいた個人情報保護を行った。

イ 法令遵守

諸規程整備等を実施し、法令に基づいた運営を実施した。

ウ 環境保全

- ・節電、省エネの取組を通年で実施し、利用者にも節電の協力を呼びかけた。
- ・夏期に建物内部の温度上昇を抑えるため、新館1階トップライト等に遮光ネットを設置した。
- ・冬季に新館の防火戸を閉め、暖房効率を上げる工夫をした。

エ 募金箱の設置

- ・令和6年能登半島地震災害義援金の募金箱を設置した。(3月1日に石川県の義援金募集に15,993円を送金)



職員による遮光ネット取付作業



暖房効率を上げるため防火戸を利用



能登半島地震災害義援金の募金箱設置

「子どもふれあいワークショップ」

1 事業目標

ボランティア活動や業務等で子どもの居場所づくりや団体活動に関わりのある指導者や青年を対象に子どもとのよりよい関係についての学びを提供し、青少年教育に係る人材を育成する。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年2月24日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：青少年指導者、青少年団体活動や教育活動等に関心のある方20名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 16名、申込人数17名（キャンセル1名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数							16	16

イ スタッフ ・講師 2名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数） 16名×1日=16名

3 事業実施のポイント

- ① 新学期の子どもの集団形成に参考となるレクリエーションを体験するとともに、集団に馴染めない子どもを想定した声かけや仲間作りに関してワークショップで意見交換する。
- ② 集団やクラスの中で困り感を持った子どもに対し、周囲の大人がどうやって原因に気づいたらいいか、また特性のある子どもからの外の世界の見え方、聞こえ方を動画教材等で体感する。
- ③ 参加者自身のこれまでの子どもとの活動や指導をふりかえり、成功したこと、失敗したことについて情報交換、事例の共有をする。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
2月 24日 (土)		13:30 レクリエーション実技 「伸び伸び楽しむ集団遊び ～遊ぶって自由だ～」(60分) 講師：群馬VYS連絡協議会 ・レクリエーション指導者 並木亜希子 氏 14:20 講義 「集団の中でちょっと気になる子どもの対応」(90分) 講師：前橋国際大学短期大学 部 教授（こども学専攻長） 臨床発達心理士・公認心理師 上原篤彦 氏	

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

○アンケート回答数 14/16 (早退1名、未回答1名)	
1 レクリエーション実技「伸び伸び楽しむ集団遊び～遊ぶって自由だ～」	
※複数回答者1名	
(1) とてもわかりやすかった 10	(2) わかりやすかった 4
(3) 難しかった 1	(4) とても難しかった 0
・遊びにおける子どもの感じ方と、大人側の目的(ねらい)に違いが生じる事例を実感できた。目的に対してどのような楽しさを提供していくか考えさせられた。	
・学んだレクリエーションを新学期の集団形成のヒントにしたい。	
・既成の枠にとらわれず遊びを考える観点が素晴らしかった。	
2 講義「集団の中でちょっと気になる子どもの対応」	
(1) とてもわかりやすかった 6	(2) わかりやすかった 2
(3) 難しかった 6	(4) とても難しかった 0
・図を用いた説明がわかりやすく、班での意見交換がたくさんできた。	
・障害のある子の気持ちや、周囲の見え方など動画教材で知ることができた。	
・時間内の情報量が多かった。もう少し話が聞きたかった。	
・理解には自分のスキルが足りなかった。時間をかけて学んでいきたい。	
・ABC分析について職場で考えてみたいと思った。	

(2) 成果

・レク実技では新年度に向けて実践的な子どもの集団形成に役立つ遊びを紹介するとともに、参加者が集団が苦手な子ども役を演じ、具体的な声かけのシミュレーションを行うなど、ともに学び合い、意見を出し合う時間をつくった。
・講座で子どもの視界を再現した動画教材を使用し、特性のある子どもの理解を深めた。
・子どもの指導において個々に合った対応を求められる傾向が高まっており、対処に関する不安や人手不足に悩んでいる団体や関係者は多い。他者との対話を通して自分の考えが再確認でき自信が持てた、自分には思いつかない考えを聞いて勉強になったという声があった。

(3) 課題

・講座には対話の時間を多めに設けたため、全体的に進行が遅れ、時間が足りなかった。また、専門的な内容に関しては、もっと詳しく話を聞きたいという参加者もあり、時間に余裕を持たせる必要性を感じた。
・指導者への効果的な周知に関してはさらに工夫したい。(応募総数は昨年度と同じ)
事業を知ったきっかけ ※複数回答者2名 未回答1名
(1) チラシ 5 (2) Web 2 (3) X (Twitter) 0 (4) 知り合いのすすめ 2
(5) 職員からの声かけ 4 (6) その他(他の事業に参加して教えてもらった) 1

6 事業の様子



レクリエーション実技



講義(保護者の理解と子どもの対応に関する意見交換)



担当 田中 康英

「中学生・高校生交流ボランティア体験」

1 事業目標

県内の中学生・高校生に対し、ボランティア活動に対する知識を伝授するとともに、活動の実践を通して交流を深める機会を提供する。また、ボランティアに対する意識啓発を行うことにより、継続した活動を推進する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年7月8日（土）・9日（日）
(2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の中学生・高校生 15名
(3) 参加状況

ア 参加者数（実人数） 8名、 申込人数 11名（キャンセル3名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数				2	6			8

イ 講師 3名

3 事業実施のポイント

- ① 研修で得た知識を当会館主催事業「つくってあそぶバルーンアート教室」で活動実践した。この教室の講師は、青少年会館友の会などでボランティア活動の経験が豊富な方に依頼し、中学生や高校生に助言した。
- ② 初めてボランティア活動に取り組む中高生が安心して実践できるよう、事前研修の充実化を図った。
- ③ 当事業で得た知識や経験を長期休み等のボランティア活動に生かせるよう、夏期休暇前に実施した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 8日 (土)		・開講式・諸連絡 ・コミュニケーションゲーム ・子どもとの関わり方 ・ボランティアの心得	
7月 9日 (日)	・諸連絡 ・活動の実践に向けて (ボランティア活動の 流れ・指導のポイント)	・ボランティア活動の実践 (つくってあそぶバル ーンアート教室にて) ・ふりかえり ・閉講式	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

・小学生が相談してくれて、嬉しかった。ボランティアの基礎・子どもとの関わり方が分かり、今後にも生かすことができる。今後も色々なボランティアに参加してみたいとなった。
・今回、このボランティアで参加者同士が仲良くなることができ、とても楽しかった。子ども達と関わって大変だったが、それ以上に子ども達がかわいいと思い、満足できた。

・コミュニケーションをとるのが得意でないため、少々心配しながら参加したが、小学生の子がしっかり話を聞いてくれて、スムーズに会話をする事ができて楽しかった。

(2) 成果

- ① ボランティアの実践で小学生との会話が弾み、バルーンアート制作の際に頼りにされた受講者が多いことから、コミュニケーション力を図ることができた。事前研修で得た知識や技法を実践で活用しているように感じた。
- ② 2日目の事前研修では、バルーンアートの技法を学ぶと共にバルーンアートの飾り付けをする場面を設けた。受講者同士が協力しあいながら作業をすることで交流を深められるほか、体験教室に参加する小学生や保護者から喜びの表情を感じ取ることができた。
- ③ 昨年度の当会館主催事業にボランティアとして参加した高校生が今回も参加してくれた。複数回参加することで、ボランティアに対する見方・考え方が深まっている。

(3) 課題

今回、当事業の募集を抽選としたが、申し込み時点で参加が決定する利点から、次年度は先着での受付を検討する。

研修よりも実践の方が好まれる傾向で、実践を中心としたボランティア募集よりも申し込み数が少ない。しかし、ボランティアの基礎を十分に学べる場を設けたいため、当事業は次年度も継続して実施したい。

近隣学校へのチラシ配布枚数を増やすなど、周知を強化し、より多くの対象者に参加を促したい。

6 事業の様子



コミュニケーションゲーム



ボランティアの心得



活動の実践に向けて①



活動の実践に向けて②



活動の実践①



活動の実践②

担当 山田 貴史

「体験活動・ボランティア活動支援センター」

1 事業目標

ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする地域の団体や機関との連絡調整を行い、協働の機会を提供する。また青少年および指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、提供する。

2 事業概要

- (1) 期日：通年
- (2) 相談状況 5件 (3/9 現在)
- (3) ボランティア活動参加者数

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数					1		40	41

3 事業実施のポイント

- ① ボランティア団体や個人に対し、要望に応じた活動コーディネートを行った。
- ② 県が運営するサイト「ボラスルン」に当会館を登録の上、ボランティア活動・体験活動を希望する個人団体に情報を提供し、活動の促進を図った。
- ③ 県・前橋の数機関による情報交換会に参加し、若者のボランティア利活用に係る情報を得た。(こちらからも提供した)

4 活動・相談内容

活動・相談日	内容
4月1日	【相談1】 除草作業のボランティア活動希望
5月8日	【活動1】 相談1の実施①
7月10日	【活動2】 " ②
7月19日	【連携1】 他機関との情報交換会（職員出席）①
8月1日	【相談2】 市の事業における講師紹介
8月9日	【相談3】 清掃ボランティアへの参加希望
9月22日	【連携2】 他機関との情報交換会（職員出席）②
10月9日	【活動3】 相談1の実施③
11月15日	【連携3】 他機関との情報交換会（職員出席）③
12月21日	【相談4】 セミナーの指導者紹介希望について
1月26日	【相談5】 障がい児や子どもにふれるボランティア活動希望
2月6日	【連携4】 他機関との情報交換会（職員出席）④
2月12日	【活動4】 相談1の実施④
3月9日	【相談6】 子どもとふれあうボランティア活動希望

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

(除草作業のボランティア団体 代表者)

- ・団体の活動場所を提供していただき、ありがたかった。会員同士が交流を深め、施設のお役に立てる喜びを感じている。

(清掃ボランティア活動に参加した高校生)

- ・ご紹介いただいた団体の活動は、予定が合わず参加が叶わなかったが、自主的に仲間達と清掃ボランティアをする機会に繋がった。

(2) 成果

- ①除草作業に取り組むボランティア団体を受け入れ、当会館敷地内の除草・落ち葉拾いを行った。双方にとって、有意義な活動になった。
- ②県・前橋の数機関が集い、若者ボランティアの利活用について情報交換を行った。当事業団から提案したイベント（ボランティアフェス[仮]・令和6年度予定）について、連携して実施する見通しが立った。
- ③件数は少ないが、ボランティア活動を希望する方に対し、要望に応じたコーディネートをすることができた。

(3) 課題

- ・本年度に行った当会館ウェブページのリニューアルに伴い、通年のボランティア受け入れ情報を掲載する場が無くなった。現ウェブページの仕様が施設利用者を軸にした構成になっているためである。過年度、インターネット経由で当事業への問い合わせを受けたことがあるため、情報発信の方法を検討したい。
- ・当事業の情報を「ボラスルン」（県運営のボランティア情報サイト）に投稿した。同サイトは運営を開始して日が浅いため、現時点で反響は無いものの、今後少しずつ県民に認知されることが期待できる。推移を見守っていきたい。
- ・コーディネートをする際、活動希望者と受入れ先の調整を図るため、時間を費やす。相談件数が大幅に増加すると、当事業の専属職員が必要になる。

6 事業の様子



除草活動



ボラスルンの活用

担当 山田 貴史

「広報のためのドローン講習会」

1 事業目標

群馬県青少年会館及び群馬県内の青少年施設、各青少年団体の周知及び広報を幅広く行うために、ドローンを使った動画撮影を行う。そのため、ドローンを使った動画撮影ができるように、ドローン活用理解と操作技術の向上を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年9月19日（火）
 (2) 参加対象及び募集人数：群馬県青少年施設連絡協議会、群馬県青少年連絡協議会関係者・
 公民館職員・公益財団法人群馬県青少年育成事業団職員 20名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 17名、 申込人数 18名（キャンセル1名） ※家族数 17世帯

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数							17	17

イ スタッフ ・ボランティア1名
 ・講師1名 ・その他0名（ ）

ウ 延べ参加人数（参加者×日数）17名×1日=17名

3 事業実施のポイント

- ①新規事業として企画した。
 ②事業団職員全員が参加できるよう、休館日を臨時開館にして実施した。
 ③開閉講式と前半の講義は中会議室、後半の実技はプレイホールと2会場で実施し、参加者が講習をスムーズに受講できるよう工夫した。

4 日程

日時	前 半	後 半
9月 19日 (火)	・開講式 ・講 義 講師：野村雅弘 氏 (1)ドローンの歴史・分類区分 (2)ドローンの活用状況 (3)ドローン市場規模 (4)ドローンの操作 (5)ドローンを利用上の留意点・飛行ルール (6)ドローン動画サンプル映像紹介 (7)ドローン撮影を広報に利用する際の留意点 (8)ドローンがつくる未来	・実 技 講師：野村雅弘 氏 補助：池田隆広 氏 (1)ドローンの操作 (2)ホビードローンの操作 ・閉講式

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【講義】

とても分かりやすかった 13 分かりやすかった 4

- ・資料が豊富でカラフルだったので、説明を聞き理解しやすかった。
- ・スライドが簡潔にまとめられていた。ドローンについて知識のない者でも分かりやすかった。

【実技】

とてもわかりやすかった 12 わかりやすかった 3

難しかった 1

とても難しかった 1

- ・最初にホビードローンで練習できたので、説明もよかった。
- ・とても分かりやすく教えて頂き、よく理解できた。操作には、技術が必要なことも分かった。
- ・上下、左右、前後を機体の向きにかかわらず、頭で再構成しながら動かしたことが、なかなかスムーズに行かなかった。

(2) 成果

- ・新規事業のため講師の人選が難しかったが、野村氏が快く引き受けてくれたおかげで、充実した講習会が実施できた。
- ・職員も含めドローンに興味・関心のある方が参加したため、アンケート結果からも高い満足度が伺えた。
- ・講師との事前打合せで講習内容を共有することができ、講義・実技とスムーズに時間的にも余裕を持った講習会になった。
- ・講師がホビードローンを数多く準備してくれたおかげで、ドローンを飛ばす順番を待つ間も充実させることができた。

(3) 課題

- ・今回は、職員の参加を考慮したため平日開催になったが、受講者が参加しやすい土曜・日曜開催が望ましい。
- ・広報に関して、SNSでの発信(リスクや効果的な方法など)についての講座開催が可能かどうか検討していきたい。

事業の様子



(講義)



(操作したドローン)



(ドローンの上昇)



(操作方法の説明)



(ドローンの操作)



(ホビードローンの操作)

担当 金子 勉

「バリアフリー事業 ふれあい・ゆうあい交流フェスタ」

1 事業目標

障がいのある人となない人がともにふれあい、互いに理解し合える場作りに向けて、障がいのある子どもを支援する団体や青少年関係団体関係者等と協働で実施するという趣旨の下、フェスティバルを開催する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年10月14日（土）～15日（日）※10/13会場準備
 (2) 参加対象及び募集人数：一般来場者100名、ボランティア30名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 198名

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		132					66	198

イ スタッフ ・ボランティア59名（高校生、大学生）
 ・その他131名（実行委員、群馬県青少年団体連絡協議会等）

- (4) 実行委員会 年間4回実施した。（6月、8月、9月、10月実施）

3 事業実施のポイント

- ① 新型コロナウイルス感染拡大などの影響から5年ぶりの開催となるフェスティバルを実行委員、関係団体、ボランティアの協力により開催する。
- ② 今後の開催（翌年度）につなげることを視野に入れながら、可能な規模で開催する。
- ③ 5年ぶりの開催で不慣れな実行委員もいるため、ゆとりあるプログラムで進行する。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
10月 14日 (土)		<ul style="list-style-type: none"> ・事業説明 ・心構えについて ・アイスブレイク ・歌とダンスの練習 ・会場準備等 	
10月 15日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ステージ発表 3団体 歌、ダンス等 ・体験ブース 3ブース (手作り魚釣り、ペット ボトルボウリング等) ・バザーコーナー 4ブー ス (焼き菓子、工芸品販 売、缶バッジ作成等) ・作品、パネル展示 5団 体 ・飲食ブース 2団体 (フランクフルト、唐揚 げ、パスタ等) 		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度（ボランティア、実行委員、群馬県青少年団体連絡協議会の感想等について）

- 1 ボランティア
- ア 障がいのある子（人）との交流
たくさん交流できた 33%、交流できた 67%と全参加者が交流することができたと回答している。
- イ 他の参加者（実行委員、群馬県青少年団体連絡協議会、ボランティア等）との交流
とてもよくできた 35%、よくできた 51%、あまりできなかった 14%との回答であり、係によっては同じ場所にいるため、実行委員さんなどの声かけ、係の交代などができるとより多くの参加者とも交流できると考えられる。
- 2 実行委員、群馬県青少年団体連絡協議会
- ・ステージ発表を実施した団体の実行委員から参加した子ども達が一日楽しく参加できたとの報告があった。
 - ・群馬県青少年団体連絡協議会の意見として、たくさん交流ができたこと、開催することができたことをよろこぶ声が寄せられた。

(2) 成果

- ・事故等がなく、5年ぶりに開催することができ、今後（来年度以降）につなげることができフェスティバルとなった。
- ・規模は以前よりも縮小されているが、ステージ発表、体験ブース、バザーコーナーなどでそれぞれのコーナーで障がいのある人（子）もない人（子）も一緒に楽しむことができた。
- ・参加したボランティアからは、障がいのある人（子）との交流の機会について、よい経験となったこと、障がいのある子についての印象が変わった、一緒に楽しめたなどの意見が寄せられた。また、ボランティア活動に今後も参加したいというも感想も聞かれた。
- ・実行委員、群馬県青少年団体連絡協議会等の各団体間での協働、連携をとりながら、滞りなく、運営された。

(3) 課題

- ・5年ぶりの開催であり、実行委員さんの参加が少なかった。今後、様々な意見を取り入れてよりよいフェスタとしていくためにも、実行委員となっただけの協力団体さんを探していく必要がある。
- ・来年度の開催に向けてどのような形のフェスタにするのがよいか、関係者と再確認していく。
- ・事前研修への参加が少なかったため、今後、広報等で、事前研修の楽しい部分（アイスブレイク、歌、ダンスの練習等も実施する）や当日の活動がよりスムーズになるための研修であることを伝えていくための方法などの検討が必要と考えられる。

6 事業の様子



事前研修 ダンス練習



ステージ発表



手作り魚釣りブース



模擬店 フランク、ポテト



バザー会場



みんなで歌おう

担当 井口堅太郎

「親子ふれあい体験教室（おやこ木工教室）」

1 事業目標

共同・協力作業を行うことにより、親子のふれあいや参加者同士の交流を深め、新たな人間関係のネットワークの構築を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年7月22日（土）・7月23日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：県内の小学3～6年生の親子 10組20名
 (3) 参加状況（2日間計）

ア 参加者合計 36名、 申込人数 58名（キャンセル 6名） ※家族数 18世帯

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生		専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		5	13					18	36

イ スタッフ ・講師 9名

3 事業実施のポイント

- ① 例年、当事業への申込件数が多いことから、開催日を2日にしてニーズに答えた。また、回数を増やすことにより、レクリエーションを行うボランティア団体に参画する機会を提供した。
- ② 昨年度と同様に材料の木材を1家族1本配布して、思い思いの作品を制作した。道具を使う練習も兼ねて作成する共通課題は、オリジナル作品の制作に時間をあてられるよう、短い時間で取り組めるよう工夫した。
- ③ より安全に作業を行えるよう、ケガの事例などを紹介すると共に、道具の使い方を丁寧に伝えた。

4 日程（両日とも同様のプログラム）

日時	午 前	午 後	夜
7月 22日 (土)	開講式 コミュニケーションゲーム (レクリエーション) 木工道具の使い方	自由（オリジナル）作品の制作…午前の続き ふりかえり・閉講式	
7月 23日 (日)	共通作品の制作 自由（オリジナル）作品の制作		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・このような事業をしている事を初めて知り、夏休みの時間を使って体験できる良い機会だと思って申し込んだ。今回のような物づくりは、自宅ではできないので有意義だった。
- ・初めて触れる物が多かったが、徐々に上達していき、子どもが自ら取り組む姿勢が見られ、親として嬉しさを感じる時間だった。
- ・工具を使う作業に対して緊張したが、親子で協力しながら取り組むことができ、非常に良かった。コミュニケーションゲームも楽しめた。

(2) 成果

- ・プログラムを通じて、親子で協力しながら作業をしており、親子のふれあいを深めることができた。
- ・講師の指導が適切で、全参加者が作品を仕上げることができた。ユニークな作品が数多く誕生した。
- ・レクリエーションは、事業の趣旨に沿うプログラム構成だった。講師（青少年団体）は、最近までコロナ禍で実践する機会が少ない中、レクリエーションの研究を行うなど日頃の努力と成果が感じられた。

(3) 課題

- ・作業が進むと共に、道具の使い方に慣れてくる頃、ケガをしやす。例年、大きなケガはないが、安全管理は毎回見直す必要がある。
- ・近年は急激に物価が高騰しているため、参加費の見直しが必要である。多くの方が参加しやすくなるように参加費を調整したい。
- ・3年間は、新型コロナウイルス感染対策のため、短時間のプログラムで実施した。親子の絆・参加者同士の交流をより深めるため、宿泊のプログラムも検討したい。

6 事業の様子



道具の使い方



ノコギリを使う親子



糸ノコギリを使う親子



作品①



作品②



レクリエーション

担当 山田 貴史

「高校生写真講座～デジカメワークショップ～」

1 事業目標

- ・デジタルカメラ写真に対する知識や技能を高める機会を高校生に提供し、班活動による写真撮影および組写真作品の制作・発表を通して、参加者同士の交流を図る。
- ・他事業で撮影ボランティアとしての活動機会を提供する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年9月2日（土）
- (2) 参加対象及び募集人数：県内在住・在学の高校生 40名
- (3) 参加状況

ア 参加者合計 17名、 申込人数 19名（キャンセル 2名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数					17			17

- イ スタッフ
- ・ボランティア 0名
 - ・講師 2名
 - ・その他 7名（講師補助）

3 事業実施のポイント

- ① 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、撮影・制作活動のグループを学校単位で編制していたが、各学校を混合し班を編制した。
- ② 大学教授を外部講師に招き、よりよい撮影・作品制作を行うため助言をした。
- ③ 高校生が他事業で撮影ボランティアとして活動する機会の提供をした。

4 日程

日時	午 前	午 後
9月 2日 (土)	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・講義 日本大学芸術学部写真学科 教授 秋元 貴美子 氏 組写真の作り方 組写真の構成 ・撮影活動 場所：敷島公園・ばら園 	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影活動 場所：敷島公園・ばら園 ・講義 日本大学芸術学部写真学科 教授 秋元 貴美子 氏 タイトルのつけ方 ・組写真制作・作品発表の準備 プリンタの使い方・写真印刷 ・作品発表・講評 ・閉講式

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

【講義】とてもわかりやすかった14、わかりやすかった3、難しかった0、とても難しかった0

- ・題名の付け方で悩むことが多いので参考になった
- ・講義の資料は簡潔で、写真も使用されていてわかりやすい
- ・組写真の構成と題名をつけるのは元々苦手だったが、テーマを統一して撮ることを学べた
- ・作品を制作する際に一番悩むが、誰も教えてくれないことを学ぶことができた

【交流】思ったより話ができただけ4、話ができただけ5、あまり話せなかった7、全く話ができなかった1

- ・写真の配置、見せ方、プレゼンについてなど意見を言い合うことができた
- ・写真を貼るとき、他の子が積極的に話しかけてくれたおかげで話し合いができた
- ・題名を考えているとき一言二言くらいしか話せなかった

【撮影活動・組写真制作】

- ・普段とは違う生徒との交流は緊張したけど楽しかった
- ・他校の参加者と交流をしながら合作し、新しい体験ができて良かった
- ・組写真の作り方についてとても勉強になった
- ・組写真に苦手意識があったので、学んだことを生かし、今後も組写真に取り組みたい

(2) 成果

- ・全体の過半数の参加者が、他の参加者と会話や意見交換ができたと回答した。タイトルや写真の構図などを積極的に話し合い、全班がプログラム通りの時間で作品を完成させ、作品発表への準備を円滑に進めることができた。
- ・昨年に引き続き、今年も大学の教授（写真学科）が講師を務め、組写真の作り方や構図について専門的な視点で講義を行った。殆どの参加者がとてもわかりやすいと回答した。

(3) 課題

- ・例年に比べ参加人数が半分以下となってしまったので、参加者募集の際により多くの人に情報を発信し広報活動をしていく必要がある。
- ・参加者の緊張を解し、より交流を図るためにもアイスブレイク的な要素を取り入れていきたい。

6 事業の様子



講義



撮影活動（ばら園）



撮影活動（敷島公園）



組写真制作・作品発表準備



作品発表



講師による講評

担当 町田 友佳

「交流文化体験」

1 事業目標

児童と留学生、高校生ボランティアが海外や日本の文化をテーマとした体験活動を通じて、多様な価値観に触れるとともに異年齢集団における交流を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年6月24日（土）、25日（日）
(2) 参加対象及び募集人数：両日ともに小学校3～6年生 20人
(3) 参加状況

ア 参加者合計 37名、申込人数 98名（キャンセル7名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		15	22					37

イ スタッフ 留学生4名、日本文化体験講師 2団体28名
高校生ボランティア 延べ11名、青少年団体7名

3 事業実施のポイント

- ① 留学生が自国の文化を紹介し、小学生が異文化に触れる。
② 留学生と小学生が共に日本文化をテーマにした体験活動で交流する。
③ 高校生に児童の体験活動をサポートするボランティアの機会を提供する。

4 日程

日時	午 前	午 後
6月 24日 (土)	<ul style="list-style-type: none">留学生の会場準備高校生ボランティアへの事業概要及び活動内容説明青少年団体指導者とのアイスブレイク等の打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none">青少年団体指導者のアイスブレイク留学生の話 アメリカ・韓国日本文化体験：古武術「法神流」体験 「礼に始まり、礼に終わる体験活動」 指導者：兵法法神流流儀伝承会
25日 (日)	<ul style="list-style-type: none">留学生の会場準備高校生ボランティアへの事業概要及び活動内容説明青少年団体指導者とのアイスブレイク等の打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none">青少年団体指導者アイスブレイク留学生の話 ハンガリー・台湾日本文化体験：和太鼓演奏体験 「見て、聞いて、演奏しよう」 指導者：高崎健康福祉大学和太鼓集団「舞」

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

■24日（土）
・児童
【留学生の話】よくわかった14、わかった3、ふつう2、わかりにくい1、むずかしい0
・食事の韓国と日本の作法の違いがわかった。

- ・英語を勉強してもっとアメリカ人と話したい等。
- 【古武道】とても楽しかった17、楽しかった1、ふつう1、難しかった1、とても難しかった0
- ・木刀の納め方が難しかった。
- ・護身術で手を捕まれた時の逃げ方がわかって良かった。

【留学生や参加者と話げたか】

たくさん話せた11、まあまあ話せた2、ふつう6、話しにくかった1、あまり話せなかった0

■25日（日）

☆児童

【留学生の話】よくわかった16、わかった1、ふつう0、わかりにくい0、むずかしい0

- ・台湾の言葉を知って楽しかった。ハンガリーのカードゲームが楽しかった。

【和太鼓】とても楽しかった16、楽しかった1、ふつう0、難しかった0、とても難しかった0

- ・大きな音が出て驚いた
- ・うまくだたけて楽しかった。

【留学生や参加者と話げたか】

たくさん話せた12、まあまあ話せた3、ふつう1、話しにくかった1、あまり話せなかった0

☆留学生（24日、25日）

- ・子どもたちに関心を持ってもらうための資料作りが難しかった。
- ・ボランティアが手伝ってくれたので本当に良かったまた小学生と交流したい。

☆高校生ボランティア（24日、25日）

- ・子どもと留学生のふれあいのお手伝いだけでなく、自分たちのボランティア活動も楽しめた。
- ・高校の授業ではできない体験ができた。また機会があれば参加したい。
- ・日本文化に触れてみて、興味がわいた。

☆保護者（24日、25日）

【内容について】良かった9、おおむね良かった3、ふつう0、あまり良くない0、良くない0

(2) 成果

- ・開会式直後の青少年団体指導者によるアイスブレイクで留学生と小学生、高校生ボランティアの心の距離が縮まり、交流しやすい雰囲気が作れた。また、その後のプログラムにより影響があった。
- ・大学職員や留学生と連絡を取り合い、テーマや資料づくりを確認し、小学生が異文化に親しみやすいプログラムを提供できた。
- ・高校生ボランティア募集を広く周知したことで、私立通信制高校からも応募があった。

(3) 課題

- ・応募が多数あり、関心が高いことが分かった。次年度以降の実施に向けて、留学生たちの状況と参加者が興味を示す日本文化の体験活動の調査が必要である。
- ・定期試験の日程の影響で高校生ボランティアが集まりにくい時期もあり、周知に工夫が必要である。

6 事業の様子



青少年団体のアイスブレイク



アメリカ文化紹介



ハンガリーのゲーム



台湾のクラフト



古武道体験（法神流）



和太鼓体験

担当 田中 康英

「高校生と小学生の夏休み交流活動」 (夏休みサイエンスクール)

1 事業目標

部活動や委員会活動に励む高校生に対し、小学生の体験教室に関わる機会を提供する。事業を通じてボランティア活動の達成感を味わい、年少者を思いやる心を育む。
また、小学生にとって、体験教室への参加を通して、科学への興味関心を高める一助とすると共に、有意義な交流の機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年8月3日(木)
 (2) 参加対象及び募集人数：小学3～6年生 20名程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 19名、 申込人数 20名(キャンセル1名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		5	14					19

イ スタッフ ・ 講師(ボランティア) 14名(群馬県立前橋女子高等学校 科学部有志)

3 事業実施のポイント

- ① 企画・運営を担当する高校生が得意とする知識や技能を存分に発揮し、社会教育への参画を経て社会貢献できる喜びを感じられるよう配慮した。
- ② 作った物で参加者同士が交流を深められる科学工作を行った。科学教育のみではなく、高校生が企画したレクリエーションも実施した。
- ③ 科学部顧問・部長(高校生)と打ち合わせを重ね、事業の趣旨に沿うプログラムを構築した。また、小学生への指導を適切に行えるよう進行の方法を熟考した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 3日 (木)	開講式・事務連絡 アイスブレイク 天文学(月について) 科学工作(望遠鏡づくり) ふりかえり 閉講式		

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【満足度】
 とてもそう思う 18人、少しそう思う 1人、あまりそう思わない 0人、全くそう思わない 0人
 【交流活動】
 とてもそう思う 16人、少しそう思う 3人、あまりそう思わない 0人、全くそう思わない 0人
 【参加者：講義の分かりやすさ】

とてもそう思う 19 人、少しそう思う 0 人、あまりそう思わない 0 人、全くそう思わない 0 人

(参加者:小学生)

- ・高校生が優しく、とても分かりやすい説明で上手につくることができ、嬉しかった。
- ・高校生と小学生が交流できる機会があれば、また参加したい。
- ・望遠鏡は作ったことがなかったので、楽しかった。もっと色々な物を作りたい。
- ・月の名前や星座など、色々なことについて知ることができた。

(指導者:高校生)

- ・興味を持ってもらえるように説明することにより、自身の理解を深めることができた。自分が「先生」の役割で活動に参加することにより、科学に対して新しい関わり方を見つけられた。
- ・小学生との交流は貴重な機会であり、良い刺激になった。社会に出ると、色々な年代の方と接する機会が多くなるため、このような交流は大きな学びがあった。

(2) 成果

- ・高校生の企画・進行・サポートが適切であり、全参加者がつまづくこと無く、学びを深めることができた。
- ・参加者に対し、高校生が積極的にコミュニケーションを図り、その場の雰囲気や和ませていた。小学生は安心して参加している様子だった。
- ・天文学の説明も丁寧に分かりやすく、参加者は概ね理解することができた。
- ・アイスブレイクのほか、作った望遠鏡で観察する際に交流を深めることができた。高校生と小学生の双方にとって、有意義な機会だった。

(3) 課題

指導者（高校生）との打ち合わせを複数回行う必要があり、先方の予定によっては、日程調整が難しい。近年、実業高校や文化部が地域イベントで活動する機会が増えており、相手方によってはタイトなスケジュールになっている。

学校や部活動顧問などの理解を得た上、初めて小学生とふれあう高校生への事前指導は不可欠であり、共通理解を図りながら進める必要がある。

6 事業の様子



開講式



アイスブレイク



天文学（月について）



科学工作（望遠鏡）



望遠鏡の試行



前日準備（高校生）

担当 山田 貴史

つくってあそぶ体験教室 「つくってあそぶバルーンアート教室」

1 事業目標

制作を通して、参加児童の創造力を養う。また、制作したものをを用いて遊ぶことにより、参加者同士のふれあいを深め、新たな人間関係のネットワークの構築を図る。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年7月9日（日）
 (2) 参加対象及び募集人数：小学1～6年生 20名程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 20名、 申込人数 48名（キャンセル2名）

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		12	8					20

イ スタッフ ・講師 3名

※「中学生・高校生交流ボランティア体験」受講者8名が活動実践として補助

3 事業実施のポイント

- ① 低学年児童の参加が多いことを想定し、簡単に制作できるものを選出した。また、制作がスムーズに進むよう、中高生ボランティアを配置した。
- ② バルーンアートを作成するだけでなく、作ったもので遊び、遊びを通して参加者同士が交流を深められるようなプログラムを構築した。
- ③ 会場にバルーンアートの飾り付けや完成作品を展示することにより、参加者の創作意欲を向上させた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
7月 9日 (日)		<ul style="list-style-type: none"> ・開講式、事務連絡 ・レクリエーション ・バルーンアート制作 ・ふりかえり ・閉講式 	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【製作・創意工夫】
 よくできた 18人、できた 2人、あまりできなかった 0人、できなかった 0人

【仲間との交流】
 よくできた 13人、できた 7人、あまりできなかった 0人、できなかった 0人

【説明の分かりやすさ】
 とても分かりやすかった 17人、分かりやすかった 3人、よく分からなかった 0人、分からなかった 0人

(感想など)

- ・みんなと一緒にバルーンアートができて、嬉しかった。また来たい。お兄さんやお姉さん（中高生ボランティア）に教えてもらい、嬉しかった。
- ・先生達の説明や教え方が分かりやすく、優しくかった。
- ・たくさんの人と一緒にできて良かった。
- ・始めは風船が割れると怖かったけど、だんだん楽しくなってきた。

(2) 成果

- ・当事業の趣旨に沿い、制作したものをを用いて遊ぶことにより、参加者同士のふれあいを深めることができた。
- ・講師の指導が適切であり、参加児童はつまずくことなく制作することができた。また、和やかな雰囲気づくりをしていたため、参加者は構えることなく、プログラムに入ることができた。
- ・中学生・高校生交流ボランティア体験の受講者が当事業で活動を実践したところ、小学生へのサポートが適切であり、交流を深められた。小学生にとって、年齢が近いお兄さん・お姉さんの存在は大きく、活動の充実化を図ることができた。

(3) 課題

バルーンアートが完成直前の段階で割れてしまうケースがある。損傷が少ない場合は速やかに補修することができるが、損傷が大きい場合は、5割程度の工程を終えているものを予め用意し、交換することも検討したい。

6 事業の様子



レクリエーション



製作手順の説明



ねずみとぼし



製作①



製作②



集合写真

担当 山田 貴史

「青少年団体活動支援事業」 (夏休み宿題お助け隊)

1 事業目標

群青連協加盟団体が連携して、子ども達の課題解決能力や社会性を育む。また、各青少年団体の活動経験を生かして高校生ボランティアの養成を行い、団体活動やボランティア活動の魅力を発信する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年8月5日(土)・8月6日(日)
 (2) 参加対象及び募集人数：各日、小学1年～6年生70名程度・高校生ボランティア20名程度
 (3) 参加状況(2日間計)

ア 参加者合計 100名、 申込人数 123名(キャンセル23名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		60	40					100

イ スタッフ ・運営スタッフ(群馬県青少年団体連絡協議会)21名
 ・高校生ボランティア 31名

3 事業実施のポイント

- ① 例年、当事業への申込件数が多いことから、開催日を2日にして参加ニーズに応えると共に、高校生ボランティアが社会教育事業に関わる機会を増やした。
- ② 今年度は、読書感想文・絵画の2コースにして、きめ細かい指導を行った。
- ③ 絵画・ポスターコースは、低学年・高学年でグループ(会場)を分けることにより、運営スタッフが習熟度に応じて支援できるよう配慮した。
- ④ 体験活動の機会として、「ストロー飛行機」を作成し、飛距離を競う大会を行った。宿題の支援に加え、体験活動を組み合わせることにより、参加者・運営スタッフ・高校生ボランティアが交流を深めることができる。体験活動は、毎年新たなプログラムを構築している。
- ⑤ 高校生ボランティアへ事前研修を行い、活動内容・小学生への接し方などを理解した上で参加した。また、事後に活動のふりかえりを行い、体験を通じた学びを深めると共に、次のボランティア活動への参加を呼びかけた。

4 日程(両日とも同様のプログラム)

日時	午 前	午 後	夜
8月 6日 (土)	・スタッフ集合 ・高校生ボランティア集合 ・高校生ボランティア事前研修 ・開会式	・宿題再開 ・体験活動：ストロー飛行機 制作・飛行機とばし大会 ・閉会式	
8月 7日 (日)	・宿題開始	・高校生ボランティアふりか えり	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【宿題を教えてもらい、質問できたか】
 とてもそう思う 73人、少しそう思う 20人、あまりそう思わない 1人、全く思わない 1人
 【小学生・スタッフと仲良く過ごせたか】
 とてもそう思う 78人、少しそう思う 15人、あまりそう思わない 2人、全く思わない 0人

(参加者：小学生 感想)

- ・自分が分からない事や知らない事を教えて貰った。私も今日教えて貰ったお姉さんとお兄さんみたいになりたい。
- ・家では集中できなかつたり、普段は1人で宿題をするけど、みんなで絵を描いたり、紙飛行機を作ったりして、とても楽しかった。
- ・お兄さん・お姉さんがアドバイスをしてくれて、絵を上手に描けた。しかも仲良くできて、楽しかった。

(高校生ボランティア 感想)

- ・はじめは緊張していた子でも、積極的に接することにより、少しずつ会話を楽しめるようになった。最後には、別れを惜しんでくれる子もいて、大変やり甲斐を感じた。
- ・色々な子どもがいて、とても楽しかった。見守りを通して子ども達の笑顔が増えたことを実感できた。

(群青連協 運営スタッフ 感想)

- ・子ども達とコミュニケーションを図りながら宿題のサポートができ、喜ぶ姿を見られて充実感を味わうことができた。
- ・高校生ボランティアと共に、子ども達が楽しく宿題に取り組む環境を作ることができた。

(2) 成果

- ・各コースの定員を増員すると共に開催日数を1日増やし、県民のニーズに応えることができた。
- ・高校生ボランティアが小学生とコミュニケーションを図りながらサポートしていた。短時間ながら、高校生への事前研修が充実しており、その成果を感じられた。
- ・体験活動の「ストロー飛行機」は、事前に群青連協事業運営委員が試作を重ねた甲斐があり、小学生にも無理なく作成し、活動を通して参加者同士の交流を深めることができた。

(3) 課題

- ・体験活動における制作については、なるべく短時間で終わらせるよう説明・指示を工夫する必要がある。
- ・低学年の児童は、休憩や息抜きを適宜入れるなど、集中力を持続させるための工夫が必要である。

6 事業の様子



ボランティア事前研修



読書感想文の支援



絵画・ポスターの支援



ストロー飛行機づくり



飛行機とばし



ボランティアふりかえり

担当 山田 貴史

「青少年団体活動支援事業」 (夏休み茶道体験)

1 事業目標

茶道を通じた体験教室を実施するため、茶道会青年部と青少年会館が協働して、企画・立案をする。また、その成果を事業として実践する。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年8月20日(日)
 (2) 参加対象及び募集人数：小学1～6年生 午前・午後の部 各10名程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 15名、 申込人数 19名(キャンセル4名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		9	6					15

イ スタッフ・ボランティア 5名(群馬県茶道会青年部)

3 事業実施のポイント

- ① 小学生が気軽に体験できるようテーブル茶道の形式で実施した。今回を入門者向けのプログラムとして実施し、12月に畳の上で行う茶道教室と差別化した。
- ② 新型コロナウイルスは第5類に移行したが、飲食を伴うプログラムであるため、感染防止対策として少人数制かつ非接触で行った。
- ③ 茶道の歴史・文化を説明する際は、小学校低学年の児童でも理解できるよう、ゆっくりと分かりやすく進めた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
8月 20日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式、事務連絡 ・茶道体験 (道具の紹介・お菓子の頂き方・作法) ・ふりかえり ・閉講式 	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式、事務連絡 ・茶道体験 (道具の紹介・お菓子の頂き方・作法) ・ふりかえり ・閉講式 	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【習ったことは分かったか】
 よく分かった 12人、だいたい分かった 3人、難しかった 0人、とても難しかった 0人

【周りの参加者に心づかいをすることができたか】
 よくできた 9人、できた 3人、あまりできなかった 3人、ぜんぜんできなかった 0人

(参加者 感想)

- ・お茶を初めて点てたが、とても良い体験ができた。お菓子のいただき方やお茶の点て方を学んだので、帰ったら家族に話したい。
- ・お茶の点て方が初めてだったけど、よく分かった。普段は、あまりお茶は飲まないけど、こんなにおいしいのだと思った。
- ・家では簡単にお茶をいれるけど、今日は1から最後までできて、とても学習になった。

(県茶道会青年部 感想)

- ・定員は、今回のように10名前後が指導しやすくて丁度良い。
- ・子どもにとっては、もう少しお茶の苦みが少ない方が飲みやすかったと思う
- ・和菓子は、もう少し子どもの興味を引きつけるものを用意する方が良い。

(2) 成果

- ・茶道の歴史・作法・文化について、講師が低学年の児童にも分かるよう、言葉を選びながら説明していた。その甲斐あって、参加者アンケートによると、全参加者が概ね理解できた。
- ・少人数制のため、きめ細かな指導をすることができた。
- ・講師補助が随時参加児童に声をかけてサポートしており、安心感を抱きながら体験活動を行うことができた。全員がつまずくことなく進められた。

(3) 課題

テーブル茶道の場合、60分のプログラムでも長く感じる。和室で実施する場合、正座をすると疲れるため時々休憩を入れるが、テーブルは通す。講師・参加者の双方が負担を感じないようプログラムの構成を見直したい。

6 事業の様子



作法の説明



茶道具の説明



体験：お菓子の頂き方



体験：お茶の飲み方



体験：お茶を点てる



参加者が使った茶道具

担当 山田 貴史

「青少年団体活動支援事業」 (おやこで茶道教室)

1 事業目標

茶道を通じた体験教室を実施するため、茶道会青年部と青少年会館が協働して、企画・立案をする。また、その成果を事業として実践する。

2 事業概要

(1) 期日：令和5年12月10日(日)

(2) 参加対象及び募集人数：親子(小学生1名と保護者1名)計20組40名
午前の部9組18名 午後の部11組22名

(3) 参加状況

ア 参加者合計40名、 申込人数 82名(キャンセル6名) ※家族数 20世帯

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		7	13				20	40

イ スタッフ ・ ボランティア 7名(群馬県茶道会青年部)

3 事業実施のポイント

- ① 多くの親子が参加できるよう午前・午後の2部制で実施した。
- ② クリスマスツリーの練り菓子やサンタの干菓子など、季節感があるお菓子を提供しお茶を楽しめるよう工夫した。
- ③ 前半は道具や作法などの基礎的な部分の説明や体験、後半は学んだことを実践できるように工夫してプログラム構成をした。

4 日程

日時	午 前	午 後
12月 10日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・茶道体験 ・アンケート記入 ・閉会式 	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・茶道体験 ・アンケート記入 ・閉会式

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

群馬県茶道会青年部

・参加者が茶道を体験して学んだこと・感じ取ったことを、日常生活で自発的に取り入れてくれると嬉しい。相手に対する礼儀や季節の移ろいを感じるなど何でもいい。

参加者

【プログラム内容の理解度について】

とてもよく分かった 16, 大体分かった 4, 難しかった 0, とても難しかった 0

(小学生)

- ・わかりやすい指導で、日本の文化に興味をもつことができた。
- ・お茶の入れ方や和の礼儀を知れて良かった。お茶とお菓子がとてもおいしかった。
- ・先生から聴いた話を自習学習にまとめて多くの人に知ってもらいたい。

(保護者)

- ・自宅でもある道具で楽しめると伺ったので、取り入れ母娘と一緒に学びを続けていきたい。
- ・茶道の相手を思う気持ちはとても素晴らしく、子どもにも伝え続けていきたいと思った。
- ・時間の流れもゆったりと感じられて、一緒に来られて良かった。

(2) 成果

- ・参加者アンケートから茶道体験で得た礼儀や作法を、今後の生活等で実践したいという感想が多く寄せられた。
- ・参加者が抹茶を点てる場面では、参加者一人ひとりに寄り添ってサポートするなど、丁寧な指導ができた。
- ・プログラム内容の説明について、ほとんどの参加者がとてもよく分かったと回答した。
- ・当日のスケジュール等を講師と事前に打合せを重ね、時間に余裕をもって実施することができた。

(3) 課題

- ・物価が上昇しているため参加費を見直す必要がある。参加者の負担にならないような料金の設定をしていきたい。

6 事業の様子



開会式



作法・茶道具の説明



お菓子のいただき方を体験



お茶の飲み方を体験



お茶点て体験（茶会）



閉会式

担当 町田 友佳

「青少年団体活動支援事業」
(目指せ！ギネス記録～君の飛行機はどこまで飛ぶ!?～)

1 事業目標

近隣の小学生を対象として紙飛行機作りを行い、異年齢間交流を通じて科学に対する興味・関心や創造性、課題解決能力を育むことを目的とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年1月28日(日)
 (2) 参加対象及び募集人数：小学1～6年生 60名程度
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 32名、 申込人数 39名 (キャンセル7名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数		24	8					32

イ スタッフ・ボランティア 運営スタッフ (群馬県青少年団体連絡協議会) 10名
 高校生ボランティア 19名

3 事業実施のポイント

- ① 作成する飛行機のモデル・材料を増やし、参加者が思い思いに作成できるよう工夫した。
- ② 飛行機とばし大会は、「距離」「滞空時間」を競う2部門を用意した。各参加者が数多くの飛行機づくりや試行の上、エントリーする部門を選択できるようにした。
- ③ 昨年は、午前＝低学年の部、午後＝高学年の部を実施したが、低学年の申し込みが多かったことを踏まえ、今回は全学年をまとめて募集した。各学年の発達段階に対応できるようスタッフの配置を工夫した。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 28日 (日)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生ボランティア 事前研修 ・スタッフ打ち合わせ ・開講式 ・アイスブレイク ・紙飛行機づくり ・紙飛行機飛ばし試行 ・飛ばし大会 ・閉会式 ・高校生ボランティア 活動ふりかえり 		

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

【作り方を教わり、質問することができたか】
 そう思う 22人、少しそう思う 9人、あまりそう思わない 0人、全くそう思わない 1人
 【みんなと仲良く過ごせたか】
 そう思う 26人、少しそう思う 5人、あまりそう思わない 1人、全くそう思わない 0人

(参加者：小学生)

- ・たくさん飛んだので嬉しかった。またやりたい
- ・お兄さんやお姉さんと仲良くできたことが嬉しかった
- ・折り紙が好きなので楽しかった
- ・お友達ができてよかった

(高校生ボランティア)

- ・事前研修でボランティア団体の方にアドバイスをいただけたので、子どもたちとは不安に感じることなく接することが出来た。
- ・事前研修はわかりやすい説明で理解しやすかった。
- ・半日だったが、とても楽しかった。もっとボランティアをしたいという気持ちになれた。
- ・色々なボランティアがある中で、1つの挑戦として参加した。次に繋がるいい経験になった。
- ・ボランティアは今までやったことはなかったけれど、これを機に参加したい。
- ・高校生と子どもの距離が近く全体的に明るかった。

(運営スタッフ：群馬県青少年団体連絡協議会)

- ・子どもの興味関心を引く内容だったため、盛り上がった。やるのが分かりやすいため、小学生が取り組みやすかったと考える。
- ・子どもたちが生き生きと楽しんで取り組めた。ギネス記録に挑戦というテーマ設定はよい。

(2) 成果

- ・高校生ボランティアは、事前研修を受け、目標を持って取り組むことができた。事前研修のスライドが分かりやすく、事業内容や子どもへの接し方を学ぶことができた。
- ・高校生のボランティアは、小学生と共に活動することにより、コミュニケーションを図ることができた。
- ・紙飛行機作りでは、材料選びや折り方を創意工夫していた。また、飛行機とばしでは、折り目の角度など形状を調整し、試行錯誤しながら取り組むことができた。

(3) 課題

- ・高学年の応募者が少なかったため、次年度も同事業を継続する際は、高学年の児童が興味を持ちそうなプログラム・PR方法について工夫が必要である。
- ・参加者が待機している時、気持ちが緩まないよう指示・誘導の仕方を工夫する必要がある。
- ・群青連協加盟団体の会員数が年々減少している。当事業へのスタッフ協力者が一定数いないと継続が難しい。参加した高校生ボランティアに対し、団体の活動に興味を持ってもらえるようPRすることも必要である。

6 事業の様子



紙飛行機づくり



紙飛行機とばし



高校生ボランティア研修

担当 山田 貴史

「青少年団体活動支援事業」 (ボランティアのつどい)

1 事業目標

VYS活動やボランティアに興味を持つ一般青少年を対象とした「ボランティアのつどい」を開催し、本会の活動を周知する。また、実践的活動として地域の小学生に対して「VYSと遊ぼう!!～あつまれ!みんなとあそび隊!～」を行うことで、VYS活動をより具体的に体験する機会を設け、活動の楽しさや充実感などを体感し、今後継続してVYS活動やボランティアを行う意欲を高めることを目指す。同時に、地域の小学生の体験的活動の場となるように、青少年をはじめ、他校、異学年の児童との関わりが持てるブースを展開する。

会員においては、VYS活動を紹介することを通して普段の活動を見つめ直し、活動に対する理解を深め、活動の拡充を意識する機会とする。

2 事業概要

- (1) 期日：令和6年3月9日(土)
 (2) 参加対象及び募集人数：高校生以上のボランティア20名、小学1年～3年60名
 (3) 参加状況

ア 参加者合計 28名、申込人数 28名(キャンセル 0名)

内 訳	未就学児	小学生 1～3年	小学生 4～6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数					28			28

イ スタッフ 運営スタッフ(群馬VYS連絡協議会)8名
 イベントに来場した小学生(1-3年生) 40名

3 事業実施のポイント

- ① 昨年度一つの会場に複数のブースを展開したため連携がとりにくかった反省を生かし、今年度は各会場にブースを一つ配置して実施した。
- ② 参加児童を4班に編成し、全てのブースを平等に体験できるよう工夫した。
- ③ 開催に向けブース体験を安全に実施できるようVYSと打合せを重ねることができた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
3月 9日 (土)	開会式 アイスブレイク 午後のイベントに向けた 体験ブース、会場の準備	「VYSとあそぼう」開催 ふりかえり VYS各地区紹介 閉会式 アンケート記入	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

■運営スタッフ：群馬VYS連絡協議会
 ・子どもたちの笑顔をたくさん見ることができた。
 ・高校生が中心となって活動することができたので、とてもいい内容だと思う。
 ・子どもたちにはわかりやすい内容で、とても楽しんでいた。

■参加者：高校生ボランティア アンケート回答 27
 1 参加のきっかけ Web 12 学校での案内 9 その他 6(友人から3、他の事業から3)
 2 アイスブレイクについて
 とてもよくできた 14 よくできた 12
 あまりできなかった 1 全くできなかった 0

- 3 小学生とのふれあいについて
 とてもよくできた 20 よくできた 7
 あまりできなかった 0 全くできなかった 0
- 4 イベントについて
 とてもよくできた 22 よくできた 4
 あまりできなかった 1 全くできなかった 0
- ・みんなと協力しながら準備をしたり、小学生を楽しませることができた。
 - ・元気な子どもたちが楽しそうに話をしてくれて、たくさん会話できた。
 - ・イベントを通して、多くの人と交流することができた。
 - ・アイスブレイクを通し、どんな人が参加しているのか把握することができ、やる気がでた。
 - ・自分から話しかけるなどして、多くの小学生とふれあえた。
 - ・初めて参加したがとても楽しかった。
- 小学生アンケート回答 40
- 1 お兄さんお姉さんといろいろなゲームを体験することができましたか
 とてもそう思う 37 少しそう思う 3
 あまりそう思わない 0 全くそう思わない 0
- 2 みんなと仲良く過ごせましたか
 とてもそう思う 30 少しそう思う 10
 あまりそう思わない 0 全くそう思わない 0
- 3 また参加したいと思いますか
 とてもそう思う 36 少しそう思う 2
 あまりそう思わない 0 全くそう思わない 2
- ・お兄さん・お姉さんといっぱい遊んだのが楽しかった。
 - ・知らないお友達とも仲良く遊べて、とてもいい時間だなと思った。

(2) 成果

- ・参加者はブースの準備から片付けまで主体的に取り組むことができた。また活動を通して、児童や参加者同士でコミュニケーションを図ることができた。
- ・時間に余裕をもってプログラムを進行することができた。
- ・バレーンバスケットでは、オリジナルのルールを定めて安全に実施することができた。

(3) 課題

- ・児童の応募者を増やすため、より関心のあるプログラムや周知を工夫する。
- ・クラフトや準備活動で刃物を扱う場合は、安全面には特に気を配る必要がある。

6 事業の様子



アイスブレイク



会場準備



バレーンバスケット



イーグルアイづくり



モンスターバスターズ



ストローコースターづくり

担当 町田 友佳

「ぐんま青少年ねっと」

1 事業目標

ホームページ・ブログ・SNS により青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信し、周知を図る。また、学習コーナーの利用者がインターネットを利用できる機器を貸し出し、青少年の自己学習や情報収集を支援する。

2 事業概要

- (1) 期日：通年
- (2) 参加対象及び募集人数：青少年、青少年指導者及び地域住民
- (3) 利用状況

学習情報コーナー利用者 172 名

内 訳	幼稚・ 保育園	小学生	中学生	高校生	大学・ 高専生	その他 学生	勤労青 少年	指導者	総計
参加者数		19	11	31	0	0	111		172

3 事業実施のポイント

- ① 群馬県青少年会館ホームページの日常管理
施設利用案内や主催事業等の最新情報の掲載（更新）作業を行った。（合計 45 回）
- ② 群馬県青少年会館ブログ・X（旧 Twitter）の記事投稿
主催事業・施設利用・館内の様子などについて、前年度（62 回）から 195 回とより多く情報発信した。X（旧 Twitter）ではこれらの案内などの他に若年層向けに、トレンドキーワードなどを活用し、会館の認知度を高めるための投稿を行った。
ブログでは会館の施設情報も掲載し、会議室等の検索における会館の順位を上げるよう記事を投稿した。
- ③ 学習情報コーナーの運営
学習・ワークスペースとしてより広く活用してもらえるように周知等を行った。
- ③ 会館における青少年関係情報提供システムの運用
情報機器の管理及び館内システムの保守等について、委託業者を通して行った。

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度

・令和 4 年度末にリニューアルした会館ホームページについて、アンケートではわかりやすいという意見が多く、会館利用、事業ページへのアクセスがしやすくなっていると考えられる。

- (2) 成果

・ブログ、SNS の更新回数については、前年度より多く発信しているため、会館の認知度については高められていると考えられる。
・X（旧 Twitter）でトレンドキーワードを含んだ投稿をした際に、これまでにないインプレッション数（表示数）があった。

- (3) 課題

・情報提供システム運用における予算は、以前に比べて縮小傾向である。さらには、近年の物価高騰の影響も含め、限られた予算内でシステム運用が難しい状況である。本来であれば、職員用パソコン等は指定管理期間毎に全てを入れ替えたいところではあるが、中古パソコンを活用している。
・インターネット検索における会議室利用の上位表示への取り組みに関しては、専門的な知識等が必要となり、今後の取り組みについては検討が必要である。

6 事業の様子



ホームページ



ブログ



X (旧 Twitter)

担当 井口 堅太郎

「青少年活動事例調査」

1 事業目標

青少年会館の運営及び主催事業の参考となる公共施設及び青少年対象のプログラム等を視察する。また、社会教育関係者や青少年団体、地域団体が実施・参加する事業や研修等に職員が赴き、関係者と情報交換を行うとともに、団体や社会教育関係者との今後の業務に向けた連携・協働関係を築く。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年4月4日～令和6年3月31日
 (2) 対象：青少年施設の施設運営、プログラム、NPO法人等の活動、青少年団体指導者、市町村で実施される事業等
 (3) 視察状況

○箇所

調査日	施設、団体名、イベント名等	目的
5月31日	デジタルクリエイティブ体験施設 tsukurun	事業の概要、施設及び設備、来場者、事業参加者の様子等
6月5日	前橋高校生学習室	高校生の利用状況、高校生へのボランティア周知と効果の可能性、設備の視察
9月14日	前橋市桂萱公民館	夏休み期間の子ども向け体験活動、講師選定、指導者研修のニーズ、公民館での実施状況等
10月25日	NPO・ボランティアサロンぐんま	次年度のボランティア等交流事業における連携・協働をテーマにした情報交換、現在のボランティアコーディネートの実状と課題
10月25日	NPO法人ぐんま郷土芸能助っ人塾	次年度交流文化体験プログラムについて情報収集、講師依頼等に関する相談
10月28日	子ども会指導者等講習会	まえばし出前講座（SDGsカードゲーム）の体験、視察、子どもの体験活動等の活用の検討
12月2日	県立女子大学群馬学センター連携事業 県民公開講座 ぐんまの郷土芸能 人形浄瑠璃	次年度交流文化体験における日本文化体験プログラム情報収集、留学生と小学生を対象とした人形芝居体験の実現に向けた検討
1月23日	県教育文化事業団	次年度交流文化体験他、小学生対象事業における体験活動指導者選定及びプログラム立案に関する相談
2月6日	邑楽町中央公民館	様々な世代の住民に親しまれている施設の運営及び特色ある設備の見学、全国的に注目されている諸事業の様子の調査
2月16日	ぐんまこどもの国	施設の運営、子ども対象事業の実施の様子、ボランティアの活用などの調査

- (4) その他

資料収集 県立青少年施設要覧、行事カレンダー、広報紙、事業チラシ等

3 事業実施のポイント

- ① 青少年施設を始め、様々な公共施設や新しい事業所を訪問し、様々なケースの施設運営やニーズのあり方、利用者の様子を調査した。
- ② NPO法人や青少年団体の活動、公民館、地域イベントのプログラムを視察し、主催事業の企画立案の参考となるデータを収集した。
- ③ 社会教育及び青少年団体関係者と広報の連携や協働について情報交換できた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

(2) 成果

- ・設備配置や掲示物、接客対応が参考になった。また、オープンスペースの構造や観葉植物の配置等について居心地の良い雰囲気作りを取り入れたい。(tsukurun、前橋高校生学習室)
- ・互いの事業案内の配布や掲示について協力関係が築けた。(前橋高校生学習室)
- ・R6年度以降の関係機関やNPOとの連携・協働に関する具体的な情報交換ができた。(NPO・ボランティアサロンぐんま)
- ・体験活動の協力団体や講師の情報が収集できた。(NPO法人ぐんま郷土芸能助っ人塾等)
- ・活動事例や児童生徒を対象とした体験教室の実績等について関係者から具体的に尋ねることができた。(県立女子大学群馬学センター連携事業 県民公開講座)
- ・他施設の児童対象の体験活動の概要を知ることができた。(前橋市桂萱公民館)

(3) 課題

- ・青少年に有意義な体験活動を提供するため、また社会教育団体等との協働で事業を推進するため、多様なノウハウを持つ団体やNPO等と相互協力体制が有効である。また、そのための対話と情報交換には十分な時間が必要である。
- ・団体等のプログラムに関する情報収集等の機会は青少年会館の事業の取り組みや利用促進PRの場としても積極的に活用する。

6 事業の様子



子ども会指導者等講習会



県立女子大学群馬学センター連携事業
(人形操作体験ワークショップ)



県教育文化事業団
(教材の情報収集)

担当 田中 康英

日時	会議等	午 前	午 後
8月26日(土)	アドバンスユニット会議		リハーサル等
9月16日(土)	アドバンスユニット会議		進行など最終確認
10月 1日(日)	「ゆめすくーる」①	A 世界のことを学ぼう	午前と同様
10月 8日(日)	「ゆめすくーる」②	B レクリエーション・工作 C パソコンの正しい使い方	
10月28日(土)	「バルーンアートをつくろう」	バルーンアート指導	午前と同様
11月 6日(日)	「ゆめすくーる」③	第1・2回と同様	午前と同様
11月18日(土)	「クリスマスリース作り」	クラフト指導	
12月18日(日)	「ゆめすくーる」④	第1・2回と同様	午前と同様

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

<p>①「ゆめすくーる」</p> <p>【参加者：満足度】 楽しかった 49、まあ楽しかった 7、あまり楽しくなかった 1、つまらなかった 4、未回答 3 ※人数</p> <p>【参加者：交流活動（仲良く過ごせたか）】 とてもよくできた 31、まあまあできた 28、あまりできなかつた 2、できなかつた 4 ※人数</p> <p>【友の会：目標達成度】 よくできた 5、概ねできた 14、あまりできなかつた 0、できなかつた 0 ※人数</p> <p>【友の会：小学生との交流】 よくできた 17、概ねできた 3、あまりできなかつた 0、できなかつた 1 ※人数 (B参加者) みんな優しく、友達と話すことだけでも、すごく楽しかった。 (友の会) イベントを企画・実行した経験を通し、社会で役立つスキルを身に付けられる。</p> <p>②「親子でチャレンジ!バルーンアートをつくろう」 (友の会) 自分たちのできることで親子に喜んでもらえた。外部との協働も楽しめた。</p> <p>③ 「クリスマスリースづくり」 (参加者) 多くの自然素材を用いて、オリジナルの作品を完成することができた。</p>

(2) 成果

<ul style="list-style-type: none"> ・友の会の活動を通して、児童や親子を対象とした体験活動を実施することができた。 ・「ゆめすくーる」の学生スタッフは、打合わせ・リハーサルを重ね、有意義なプログラムを構築することができた。また、企画・運営を通し、学生自身の成長に繋げることができた。
--

(3) 課題

<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成ユニットの会員数は、一定数を保っているものの、新規加入が無い。ユニットの存続について、会長及びユニット会員と共に検討したい。 ・「ゆめすくーる」は、企画運営に関わる事務量が多い。担当ユニット内で、個々の負担が軽減できるよう調整する必要がある。過度にならない程度に当事業団の支援も検討したい。
--

6 事業の様子



ゆめすくーる



バルーンアート講師協力



クリスマスリースづくり
担当 山田 貴史

「地域連携協力事業」

1 事業目標

市町村や県内団体及び学校等の要望に応じて、関係者と連携を図り、協働したプログラムを実施する。

2 事業概要

(1) 期日：令和5年4月～3月

(2) 対応状況

対応件数 6件

内 訳	小学校	中学校	高校	大学	団体	施設	その他		総計
対応件数	1		1	2		1	1		6

3 事業実施のポイント

- ① ライオンズクエストワークショップは共催先の都合と学校職員の参加しやすい時期について検討を重ね、12月に実施した。周知は学校ばかりでなく、幅広く事業説明を行った。
- ② 他施設との連携では館外でのイベント等に積極的に参加し、事業団のPRに努めた。
- ③ 小学生の施設見学や高校生・大学生のインターンシップや実習等では事前に学校の担当者との協議を重ね、有意義なプログラムを提供した。

4 日程

日程	プログラム名	内容	連携・共催団体等
6月16日 10月22日 1月30日 2月3日	体験の風をおこそう運動	第1回実行委員会出席 あかぎフェスタブース出店 第2回実行委員会出席 スマーク伊勢崎ブース出店	国立赤城青少年交流の家
5月31日	町たんけん（小学校2年生の施設見学）	館内案内、プログラム案内等	前橋市立荒牧小学校
7月8日 7月9日	社会教育実習受け入れ	社会教育（青少年育成事業）に係る実習	東京福祉大学
10月25日	高校生短期インターンシップ受け入れ	施設見学及び青少年育成事業団の業務説明と体験	県立前橋商業高校
12月22日	社会教育実践研修Ⅱ受け入れ	青少年会館の役割と職員の業務に係る説明、青少年育成事業に関する講義及び館内見学等	群馬大学共同教育学部
12月26日	ライオンズクエストワークショップ	ライフスキル教育の理解と演習	ライオンズクラブ国際協会333-D地区

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ◆社会教育実習（東京福祉大）
 - ・大学で社会教育を学び青少年教育に興味を持った。中学生、高校生の頃に学習室等を利用していても、青少年会館での実習を希望した。小学生等の体験活動に実際に関わってみて講義では分からなかった気づきがあった。
- ◆高校生インターンシップ
 - ・青少年会館の仕事の説明やイベントの様子を知り、お客様への気遣いや誠意を感じた。自分も就職したらお客様へに誠意を持った対応を心がけたいと思った。
 - ・施設の存在は知っていたが、仕事内容までは知らなかった。不登校生徒の支援などもあり、社会に必要とされる大事な仕事だと思った。
- ◆ライオンズクエストワークショップ
 - ・あいさつ、思いやり等、集団作りをする際に「ライフスキル」を大事な柱としたい。
 - ・年齢や発達段階に合わせたプログラムが設定されており、今後の授業に取り入れられると思った。
 - ・異なる年代、立場の参加者の中での交流を通じて教師として大切にしなければならないことを再確認できた。

(2) 成果

- ◆ライオンズクエストワークショップ
 - ・教員や企業経営者等の参加者が、学校の授業において人間形成に必要な学力以外の学びや体験をどのように取り入れたらよいか意見交換できた。また、模擬授業の立案と発表で具体的な手法を体験してもらうことができた。
 - ・参加人数は昨年度より10名増え、28人で実施した。（応募総数29人）
- ◆体験の風をおこそう運動
 - ・ひのきの箸づくりで体験ブースを出店した。普段の生活で使うことがない道具（カンナ）を用いた製作体験を提供できた。また、他の施設や団体の体験プログラムを見る機会になった。
- ◆社会教育施設の現場学習（群馬大学「社会教育実践研修Ⅱ」）
 - ・教職員を目指す大学生に社会教育や青少年健全育成事業の具体例を示し、理解してもらえた。また、学生から見た青少年会館の印象を聞くことができた（館内が衛生的、学習コーナーや会議室にWi-Fi設備があり便利、Xの画像で見たおやこ茶道教室が楽しそう等）。

(3) 課題

- ・ライオンズクエストワークショップは当初8月の開催を計画したが、共催者の都合で12月になった。主たる対象者である学校の教職員が参加しやすい開催日と募集方法については引き続き共催者と検討していきたい。

6 事業の様子



ライオンズクエスト
(模擬授業立案・発表)



あかぎフェスタ
(ひのきの箸づくり)



荒牧小学校 町たんけん
(施設見学)

担当 田中 康英

「令和6年新年交歓会」

1 事業目標

当事業団の関係者が一同に会し親睦を深めることにより、各種事業の広報と関係機関との連携強化、研修施設の一層の利用促進を図り、当事業団の充実発展を目的に開催する。

2 事業概要

(1) 期日：令和6年1月20日（土）

(2) 参加対象及び募集人数：青少年行政関係者・青少年団体関係者等 80名程度

(3) 参加状況

ア 参加者合計 75名、 申込人数 75名（キャンセル 0名）

内 訳	未就学児	小学生 1~3年	小学生 4~6年	中学生	高校生	専門短大 大学生	社会人 保護者	総計
参加者数						1	74	75

イ 出演者等 ・司会 2名

・ステージ出演者 2名

ウ 延べ参加人数（参加者×日数）75名 ×1日 = 75名

3 事業実施のポイント

- ① 新型コロナウイルスが第5類に移行したものの、感染対策を踏まえて長時間の飲食を伴わない形式で開催した。
- ② 過年度は、食事をしながら出席者同士の交流を深めていたが、それに代わる交流の場として、ウェルカムコーナー（呈茶）を設けた。
- ③ 当会館を活動拠点とする青少年団体の会員に司会・箏演奏・呈茶を依頼すると共に、各団体の広報等を配布し、出席者に団体の活動を周知した。
- ④ 出席された社会教育関係者等が明るく前向きな気持ちになれるよう、箏演奏・落語を取り入れ、新春にふさわしいプログラムを構築した。
- ⑤ 出席者に当会館の社会教育事業についてご理解いただくため、開式前のオープニングムービー（スライド）で主催事業の内容を伝えた。

4 日程

日時	午 前	午 後	夜
1月 20日 (土)	ウェルカムコーナー(呈茶) オープニングムービー 開会 理事長あいさつ 祝辞 来賓紹介 箏演奏 新春落語 閉会		

5 事業評価

(1) 参加者の満足度

- ・呈茶のコーナーがあったため、多くの方々とゆっくり会話ができ、交流の輪を広げることができた。
- ・落語などのアトラクションが良かった。今回のような内容は、参加しやすい。

(2) 成果

- ・今回は会食を伴わない内容だったが、呈茶のコーナーを設けることにより、出席者同士の交流や情報交換をすることができた。
- ・短時間開催かつ参加費の徴収額を抑えることができたため、例年よりも多くの方々に出席いただくことができた。
- ・落語等のアトラクションを用意したため、青少年団体・ボランティア団体の会員等が気軽に参加することができた。

(3) 課題

次回以降、会食の有無については検討が必要である。会食のメリットは、歓談の時間をしっかりと設けることができる。反面、参加費の徴収額が高くなるため、参加へのハードル上がる。また、人によっては、歓談の時間が長いと時間を持て余してしまうことが懸念される。

今回のようなアトラクションを中心としたプログラムは、短時間かつ参加費が低いため、気軽に参加できる。ただ、歓談等による交流の場を設けると共に、新たなアトラクションの内容を考える必要がある。

6 事業の様子



ウェルカムコーナー(呈茶)



スライドショー(事業報告)



来賓祝辞



箏演奏



新春落語



正面玄関

担当 山田 貴史

「団体補助」

1 事業目標

団体の活性化を図るために、会館に事務局を置く5団体へ補助金を交付する。(4万円×5団体)

2 事業概要

青少年団体が安定した事務局運営ができるよう、会館に事務局を構える5団体(群馬県青少年団体連絡協議会、日本ボーイスカウト群馬県連盟、一般社団法人ガールスカウト群馬県連盟、公益社団法人群馬県子ども会育成連合会、群馬県青年団連合会)に対して、1団体あたり4万円の補助金(青少年団体育成費)を交付した。

担当 山田 貴史

「青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）」

1 事業目標

不登校、非行、ひきこもり、ニートなどの様々な悩みを抱えている青少年のために、相談活動や体験活動をとおして立ち直りを支援する。また、再び勉強をしたいという青少年のために、各種情報や勉強場所の提供や学習相談も行う。

2 事業概要

- (1) 期日：通年
 (2) 参加対象者及び募集人数：中学生・高校生・概ね20歳未満の若者及びその保護者・関係者
 (3) 参加状況
 ア 参加者合計

月別状況 (2月29日現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談申込者数	7	3	4	8	2	3	4	8	3	1	1		44
相談実施数(面接、電話、メール等)	18	14	69	65	67	81	75	130	81	45	80		725
進路相談会					55		70						125
体験活動申込み人数			2	2	4	4	2	3	6	2	4		29
(内 申し込み人数新規)			2	2	4	2	0	2	5	1	1		19
体験活動実施件数			2	2	3	4	2	3	5	2	4		27

※1 当該月の新規相談対象生徒数

※2 相談実施数は、対象生徒・保護者・教員等からの延べ相談数

※3 体験活動申込みは、実人数

イ スタッフ ・体験活動コーディネーター (CN) 6名
 ・事業コーディネーター (会館職員) 2名

3 事業実施のポイント

◎悩みを抱える青少年の心をほぐし、自己肯定感や自信を高め、立ち直りを支援する

① 体験活動の充実

- ・CN、事務局が参加する事前の相談で本人の希望にあった事業所等の紹介
- ・CNによる体験活動実施前の本人・学校・事業所との連携の潤滑化

② 再学習支援の充実

- ・学習方法の相談、進路情報の提供
- ・進路相談会での配布資料の充実及び事前予約による面談

4 日程

○ 合同会議

第1回 4/14(金) 10:00～12:00 委嘱状交付、令和5年度青少年自立・再学習支援事業について
令和4年度活動状況報告等

第2回 7/ 6(木) 10:00～12:00 CN対象研修会、活動状況報告、事例報告、進路相談会について

第3回 12/ 8(金) 10:00～12:00 活動状況報告、事例報告

第4回 3/ 6(水) 10:00～12:30 CN対象研修会、活動状況報告、令和6年度に向けて

○ 進路相談会

第1回 8/27(日) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館

第2回 10/21(土) 13:00～16:00 場所：群馬県青少年会館

事前予約で希望のあったCN、ステップアップ学習相談員、前橋清陵高校、太田フレックス高校、高崎高校通信制、桐生高校通信制、クラーク記念国際高校、わせがく高校、第一学院高校、おおぞら高校、NHK学園高校、白根開善学校がブースで対応した。参加者には通信制高校やサポート校等の資料を配布した。

5 事業評価

① 参加者の満足度 (アンケート結果及び活動状況所見)

◎ 体験活動

・ケーキ屋さんで体験させていただきました。体験を終えた後、「作業が早くて助かりました。」などの言葉をもらい、嬉しかったです。体験先の雰囲気も良く、充実した体験活動ができ、将来このような仕事ができたら、楽しそうでいいなと思いました。

・体験を通して、暑い中体力的にきつかったのですが、最後までやり抜く忍耐力と体力をつけることができました。土作りから日々丁寧な手入れを重ねて時間をかけて育てた野菜を収穫するときの喜びが何よりも仕事する上でのやりがいなのだと感じました。

・人や社会の当たり前を感じるものやことの見えないところで役に立っている人々のおかげで生活できていると改めて感じました。あと仕事がいかに大変かを感じ取ることができ、よかったです。流れ作業はペースや一緒にやっている人との感覚が大事なので、自分のやり方や他の人のやり方でやりやすい方法を発見できたので、勉強にも生かそうと思いました。

◎ 再学習支援

○ 進路相談会

・個別でやっていただいたので、よかったです。パーティションで周りからみられることなく、話しやすかったです。

・通信制の高校の情報が聞けて、大変参考になりました。ありがとうございました。

・ゆっくり優しく話を聞かせてもらえ、こちらの話も真剣に聞いていただけて、安心して話せました。ありがとうございました。とても親身になってアドバイスをいただきました。参考になりました。

- ・いろいろな方法で学べることを知れてよかったです。また、相談できる所があることで、安心できました。
- ・個々の相談をさせてもらいましたが、どの先生方も親身になって聞いてくださったので、話しやすかったです。このような機会をありがとうございました。

② 成果

◎体験活動

・体験活動申込みが19名(中学生14名、高校生1名、中学卒業生3名、高校卒業生1名)、延べ29回実施した。

・体験活動後に良い方向に変化した生徒等が多かった。直後の様子を見ると、表情が明るくなり、やりきったという自信がうかがえた。しばらくして、引きこもりがちだった生徒が支援教室(旧適応指導教室)に通うようになったり、体験した職業に就くことを考えた進路選択をしたりする等の変化も見られた。働くことをとおして喜びを感じたり、事業所の方に認められたり、交流が図れたりしたことが要因であると考えられる。

・中学3年生11名については、高校決定者2名、進学希望者7名、就職1名、就職希望1名である。中学2年生2名については、フリースクールへの通学1名、不登校1名(休日には友達と外出)である。中学1年生1名については、不登校であるが、次年度体験活動を希望している。高校生1名については通信制の学習と併用してステップアップの学習会へ参加し、高卒認定試験を受験し、2教科合格した。中学卒業生3名は、2名が通信制高校へ進学、1名が就職希望である。高校卒業生の1名は通信制の大学に進学し、並行して4月から県立の夜間中学校に通うことになった。

○学習相談

・体験活動は実施せず、学習相談だけの対象者は26名。定期的な面談や電話相談等、実態に応じて支援を展開した。

◎再学習支援

○進路相談会(全体)

・中学生12名・高校生6名・高専1名、退学既卒者2名、保護者等51名、学校・行政関係2名、関係機関・事業団等48名の計122名の出席があった。

・参加者は県内各地から参加し、前橋市15組、高崎市7組、伊勢崎市5組、渋川市5組、みどり市4組、安中市3組、桐生市2組、玉村町2組、太田市1組、館林市1組、計45組であった。

・相談内容は悩みや進路35件、高校や高卒認定90件、計125件。その後高校見学や体験活動につながり、進路決定の参考となる相談が展開された。

③ 課題

◎体験活動

・体験活動後のフォローの仕方について課題があると感じている。登校を促す、教育支援センターでの学習を勧める、再度体験活動を勧める等考えられるが、本人の意思を尊重し、自分で考えて決めていく時間を確保してあげる支援が必要である。

◎再学習支援

・進路相談会への参加者は昨年より約20%増加したが、参加が少ない市町村がある。春に全県の教育支援センター・教室(旧適応指導教室)を訪問しているが、進路相談会前に重点地域を決め、再度訪問するなどして周知を図っていきたい。

6 事業の様子

①合同会議(第2回・7月)



②進路相談会(第1回・8月)



③進路相談会(第2回・10月)



④体験活動【パン製造】



⑤体験の反省会【幼稚(こども)園】



⑥事業所への感謝状贈呈訪問



担当 根岸 保夫

令和5年度青少年自立・再学習支援事業
(地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業)

1 事業目標

学力格差の解消及び高等学校中退者等の進学・就労に資するよう、高校中退者等を対象に高等学校卒業程度の学力の習得を目指し、学習相談及び学習支援を行う。

2 事業概要

- (1) 期日：令和5年4月1日～令和6年3月12日
 (2) 参加対象及び募集人数：高校中退者・中学校卒業後進路未決定者等
 (3) 参加状況

①学習相談 (単位：人) 2月末現在

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計		
当月新規学習相談者数	11	4	3	1	2	1	0	4	0	2	0	28		
当月支援学習相談者実人数	9	10	8	6	14	12	5	10	10	8	12	104		
のべ人数	電話	本人	14	7	6	3	10	10	1	5	7	5	13	81
		保護者	11	10	2	3	3	3	4	2	7	0	5	50
		その他	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	7
	面談	本人	28	22	17	25	16	26	18	11	17	14	21	215
		保護者	18	5	2	1	6	7	8	4	9	0	3	63
		その他	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	4

②学習支援(学習会参加) (単位：人) 2月末現在

参加者数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
実人数	実人数	5	6	4	4	3	4	2	0	3	3	4	38
	のべ人数	9	13	10	9	4	12	3	0	6	6	8	80

3 事業実施のポイント

- ① 当事業の開始時に、今年度は当初新規で3人の大学生、その後7月から1名増員し、計4名(群馬大学共同教育学部2年生2名・4年生1名、医学部2年生1名)に学習支援員を依頼した。事業内容を理解し、個に応じた支援ができた。
- ② 支援員の業務日誌を有効に活用し、継続的な支援を心がけた。また、学習会事前事後には支援員と相談員との打合せ報告を短時間に行い、学習相談者への支援の充実に努めた。
- ③ 学習相談員と相談者が連絡を取りやすくするために、当事業専用のスマートフォンを活用した。
- ④ 二人の学習相談員と担当会館職員が学習相談者の情報を共有し、学習相談者への支援が円滑にできるように、相談員の業務日誌・引き継ぎカード・短時間の打ち合わせ等を活用した。

4 日程

日時	午前	午後	夜
4月～3月随時	学習相談	学習相談	
4月～3月主に土日	学習相談	学習会 年間60回開催	
8月末 10月末		第1回進路相談会 第2回進路相談会	

5 事業評価

- (1) 参加者の満足度 学習相談者のアンケートから抜粋

- ◆Aさんの感想：レポートが進みよかったです。ありがとうございました。
- ◆Bさんの感想：・不正解箇所の指導をよろしく願います。過去問については、今後は

文系の受験となるため、自宅で学習する予定です。

(2) 成果

- ・今年度の学習会参加者は19人と、昨年(11人)に比較して多かった。学習会では継続した取り組みとして、距離を保って着席・事後の消毒等、感染対策を十分に図って実施した。面談時・学習支援時は特に留意し、個の特性に配慮しつつ事業運営に支障がないよう留意した。
- ・新規相談者が当事業の情報を入手した経路は、G-SKY Plan や県子ども若者支援協議会をはじめ、知人からの紹介、心療内科、高校からの情報があり、今年度もインターネット検索が目立ち、広報活動や地域・団体等との連携成果が現れている。

<第1回高卒認定試験について…5名受験>

○参加回数に違いはあるが、全員学習会に参加していた。受験結果は次の通りである。

- 3科目受験・3科目合格…全科目合格2名(履修単位と併せて)…大学進学を目指す
- 4科目受験4科目合格2名…第2回受験で残り4教科を受験予定
- 6科目受験6科目合格1名…第2回受験で残り2教科を受験予定

<第2回高卒認定試験について…7名受験>

○学習会に参加していた6名の受験結果は次の通りである

- 4科目受験・4科目合格…全科目合格…大学進学を目指す(第1回の科目合格者)
- 2科目受験・2科目合格…全科目合格…今後については検討中
- 4科目受験・3科目合格…英語はR6年度に再挑戦…(第1回の科目合格者)
- 3科目受験・3科目合格…全科目合格…1月中に大学・短大を受験予定
- 3科目受験・2科目合格…世界史はR6年度に歴史総合として再挑戦
- 3科目受験・2科目合格…生物の再挑戦も含め、通信制高校の単位取得との兼ね合いで受験を考える

○電話と面談のみの1名の受験結果は次の通りである。

- 8科目受験・8科目合格…全科目合格…高2相当のため、大学受験についてはじっくり考える

以上、今年度全科目合格者6名・科目合格者3名(R6年度に再挑戦等)

- ・当事業の学習者(相談者)は、高卒認定試験後、そのほとんどが大学・専門学校に進学(または進学に向けて学習継続)、仕事に関係した資格取得を予定している。
- ・学習者については、本人の状況を把握し、本人への連絡や情報提供については適切な時期を見計らって実施し、個別支援の充実に努めることができた。

(3) 課題

- ・高校中退者や社会人の中にも、今後の進路の1つとして、高校卒業・高卒認定資格取得を希望しているにもかかわらず、高卒認定試験の制度やステップアップ事業の認知がまだ十分とは言えない。インターネット検索が増加してきているので必要とする人に情報が届くよう、引き続き広報活動の工夫が望ましい。
- ・アルバイトや勤務の都合により、学習会に参加できない相談者も多く、平日に学習相談(面談)・学習支援をすることも多くなった。勤務状況が厳しい中で土日に仕事が入り、日程調整ができないとの背景がある。
- ・例年相談者の中には、特別な配慮が必要な方もいる。生育歴・家庭環境等、デリケートな面もあるので、本人の状況を確認しつつ丁寧に接し関わっていく。
- ・学習会の会場が群馬県青少年会館のため、交通の便を考えると、送迎が必要になるケースが多いが、個々工夫して来館している。
- ・基礎学力の不足があり、特に中学校段階の学習の補完については、新設される夜間中学校との連携も視野に、学習相談者へ周知をしていきたい。

担当 金子 勉

2 重要な契約等に関する事項

指定管理関係

名 称 (契約期)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する基本協定 (令和2年3月13日)	指定管理者として群馬県青少年会館の管理及び運営を5年間(令和2年度～令和6年度)実施する上での基本項目の協定。 令和2年12月1日：管理費用の総額を342,084,756円に変更。 令和3年3月31日：管理費用の総額を345,507,390円に変更。 令和5年4月1日：協定本文第18条中「群馬県個人情報保護条例(平成12年群馬県条例第85号)を削除し、「その他法令」を加える。 協定別記2「群馬県青少年会館 管理業務等仕様書」中、「群馬県個人情報保護条例」を「個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号) その他法令」に改める。 協定別記3「個人情報取扱特記事項」を改める。 協定別記4を改める。	群馬県教育委員会 教育長	345,507,390 (変更後)
群馬県青少年会館の管理及び運営に関する年度協定書 (令和5年4月1日)	上記基本協定書に基づき、群馬県青少年会館の管理及び運営の1年間(令和5年度)の管理費用、特定業務等の協定。	群馬県教育委員会 教育長	67,773,000

受託事業関係

名 称 (契約期)	内 容	契約の相手方	金 額 (円)
令和5年度青少年自立・再学習支援事業 「G-SKY Plan」 (令和5年4月1日)	悩みを抱える青少年及び保護者に対して相談を行い、必要に応じて体験活動を実施するなどして生活を充実させ、不登校やひきこもりからの脱却や社会的自立を支援する。また、	群馬県教育委員会 教育長	4,999,939

	<p>高校中退者等の再学習のための相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援体制の充実を図り、各種情報の提供を行う。 		
<p>令和5年度青少年自立・再学習支援事業</p> <p>「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」</p> <p>(令和5年4月1日)</p>	<p>高校中退者等を対象とした学び直しのための支援を行う。</p> <p>高校卒業程度認定試験等に関わる相談及び情報提供と、希望者に応じて会館での学習支援を行う。</p>	<p>群馬県教育委員会 教育長</p>	<p>2,700,000</p>

3 役員会等に関する事項

(1) 理事会、評議員会

区分	開催期日等	出席者数	議事事項	審議結果
第38回 理事会 (定時)	令和5年 5月26日	理事8名 監事1名	〔承認事項〕 第1号 令和4年度事業報告に関する件 第2号 令和4年度決算に関する件 〔決議事項〕 第1号 第30回評議員会(定時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり決議 資料を基に報告
第30回 評議員会 (定時)	令和5年 6月16日	評議員 5名 理事2名 監事1名	〔報告事項〕 第1号 令和4年度事業報告について 第2号 理事長の職務の執行状況について 〔承認事項〕 第1号 令和4年度決算に関する件 〔決議事項〕 第1号 任期満了に伴う評議員及び理事並びに幹事の選任に関する件	資料を基に報告 資料を基に報告 原案どおり承認 賛否を諮り決議
第39回 理事会 (臨時)	令和5年 6月16日 14:00	理事8名 監事2名	〔報告事項〕 第1号 任期満了に伴う評議員及び理事並びに幹事の選任状況について 〔決議事項〕 第1号 理事長、副理事長、常務理事の選定に関する件	資料を基に報告 互選により決議
第40回 理事会 (定時)	令和6年 3月19日	理事9名 監事2名	〔決議事項〕 第1号 令和6年度事業計画に関する件 第2号 令和6年度収支予算に関する件 第3号 第31回評議員会(臨時)の招集に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長及び常務理事の職務執行状況について	原案どおり決議 原案どおり決議 原案どおり決議 資料を基に報告
第31回 評議員会 (臨時)	令和6年 3月27日	評議員 5名 理事2名 監事1名	〔承認事項〕 第1号 令和6年度事業計画に関する件 第2号 令和6年度収支予算に関する件 〔報告事項〕 第1号 理事長の職務執行状況について	原案どおり決議 原案どおり承認 資料を基に報告

(2) 運営委員会

区分	開催期日等	議事
第1回	令和5年 9月26日	令和5年度事業概況報告 下半期の予定
第2回	令和6年 2月29日	令和5年度事業報告 令和6年度事業計画